資料3

2026.1.7時点案

みのかも定住自立圏
公共交通基本構想
（素案）

令和●年●月

みのかも定住自立圏

目　次

第１章　趣旨と位置づけ……1
１．　構想策定の趣旨……1
２．　構想の位置づけ……1
３．　構想の区域……2
４．　構想の期間……2
第２章　地域公共交通の現状……3
１．　地域公共交通の運行状況……3
２．　公共交通の利用実態及びニーズに係る調査・分析……18
第３章　地域公共交通に係る課題……25
１．　圏域全体の課題……25
２．　各エリアにおける課題……28
第４章　構想の基本的な考え方……35
１．　基本理念と４つの目標……35
２．　地域公共交通の将来像……36
第５章　目標達成のために行う施策……40
１．　事業体系……40
２．　施策内容……41
第６章　構想の評価指標……57
１．　評価指標の設定……57
２．　評価の方法……57

第１章　趣旨と位置づけ

１．構想策定の趣旨

みのかも定住自立圏では、加速する少子高齢化に伴い、車以外でも誰もが便利に移動できる公共交通を整備･充実し､いつまでも暮らし続けられるまちを維持していくため、公共交通の維持と変化するニーズへの対応が求められています。また、圏域内から中心市等の医療、教育、商業、観光、公共等の施設への移動ニーズも高く、圏域内を結ぶ鉄道の有効活用や各連携市町村が運行するバス等の連携により、広域的に便利に移動できる公共交通ネットワークを形成することが求められています。

これらに対応した地域交通政策を推進するため、連携各市町村間の連携方針となる基本構想を策定します。

みのかも定住自立圏とは

美濃加茂市を中心市として、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村が連携し､「住み続けたい」「住んでみたい」と思える地域づくりを進める広域連携の仕組みです。

総務省が推進する「定住自立圏構想」に基づくもので、人口減少・少子高齢化が進む中、複数自治体が役割分担しながら地域の暮らしを守り、発展させることを目的としています。

２．構想の位置づけ

本構想は、みのかも定住自立圏の圏域全体の目指すべき将来都市像の中で公共交通が果たすべき役割を定め、各市町村が運行しているコミュニティバスなどの公共交通の維持・確保と圏域内公共交通の連携を図るための取り組みを定めた構想です。

３．構想の区域

本構想の区域は、みのかも定住自立圏を構成する1市6町1村（美濃加茂市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）とします。

４．構想の期間

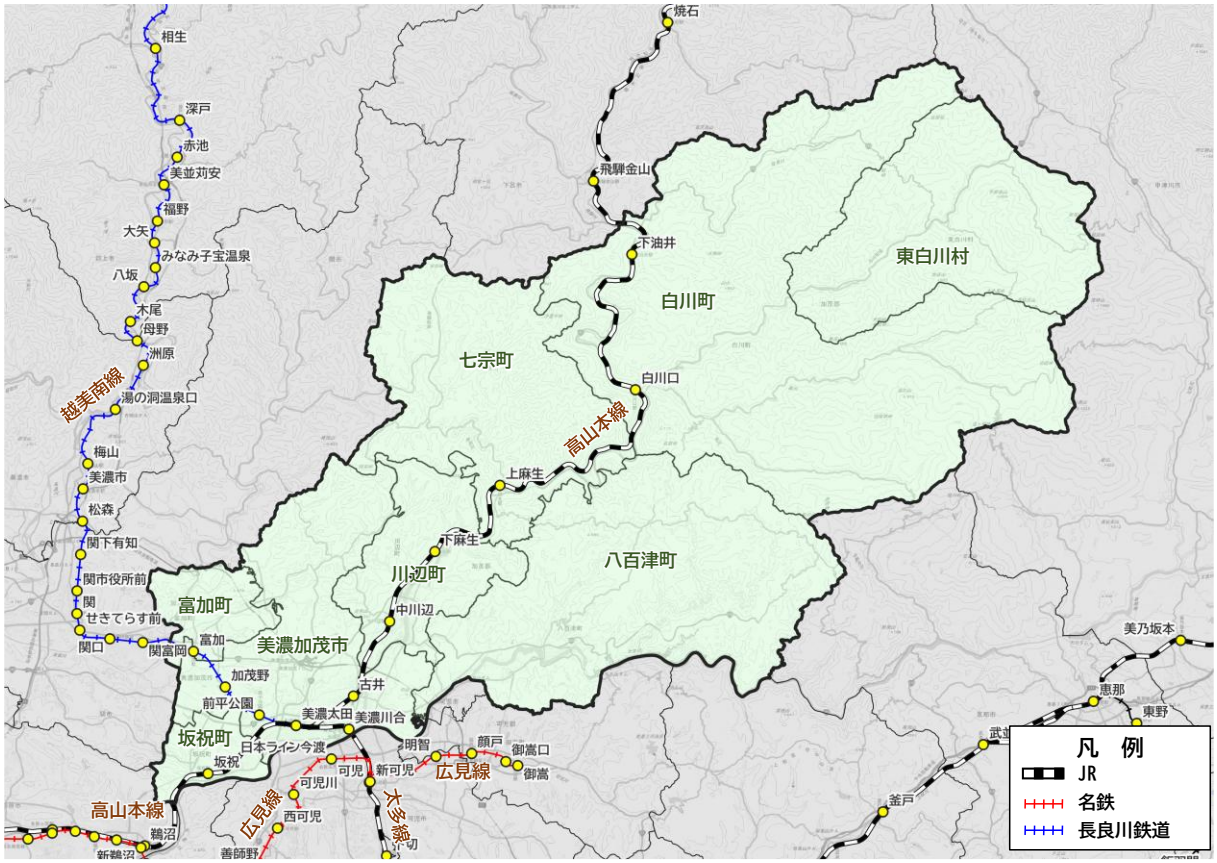
構想の期間は、5年間（令和8年度～令和12年度）とします

第２章　地域公共交通の現状

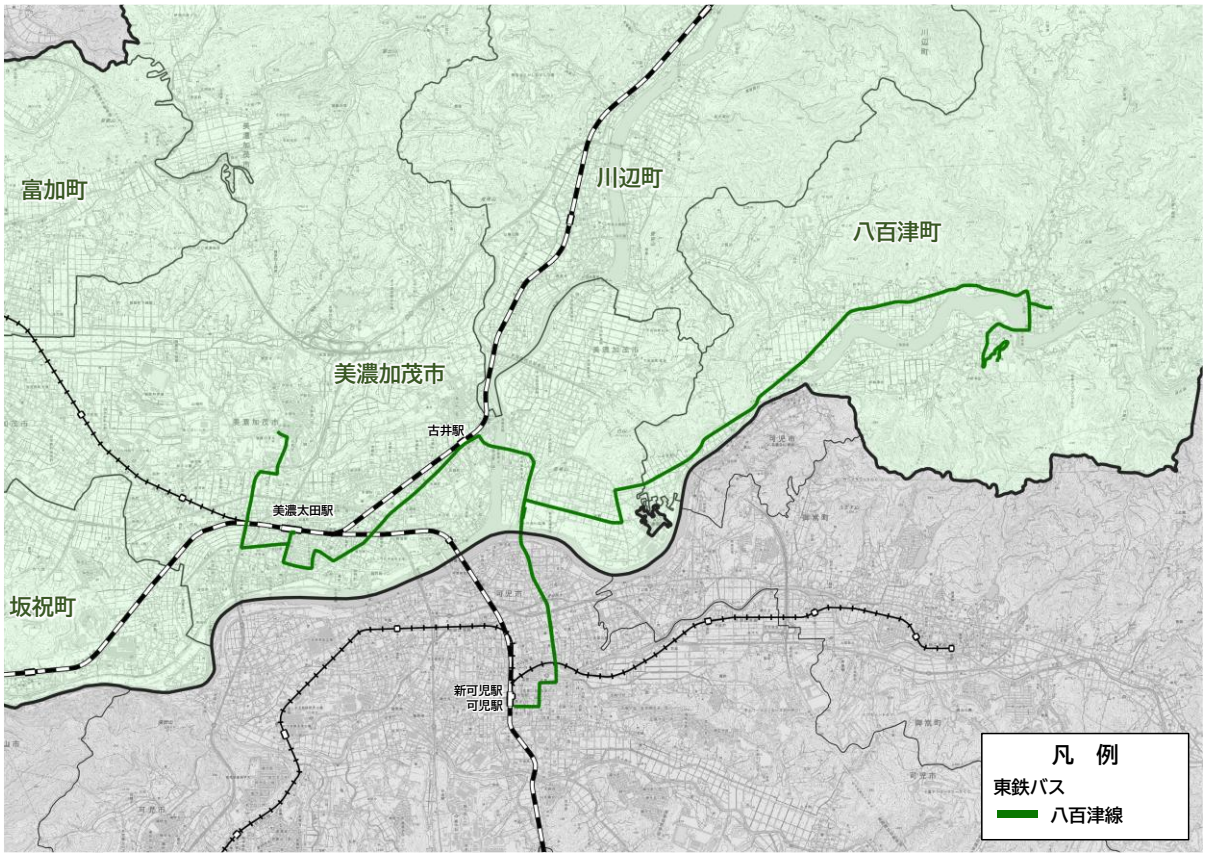
１．地域公共交通の運行状況

（１）鉄道

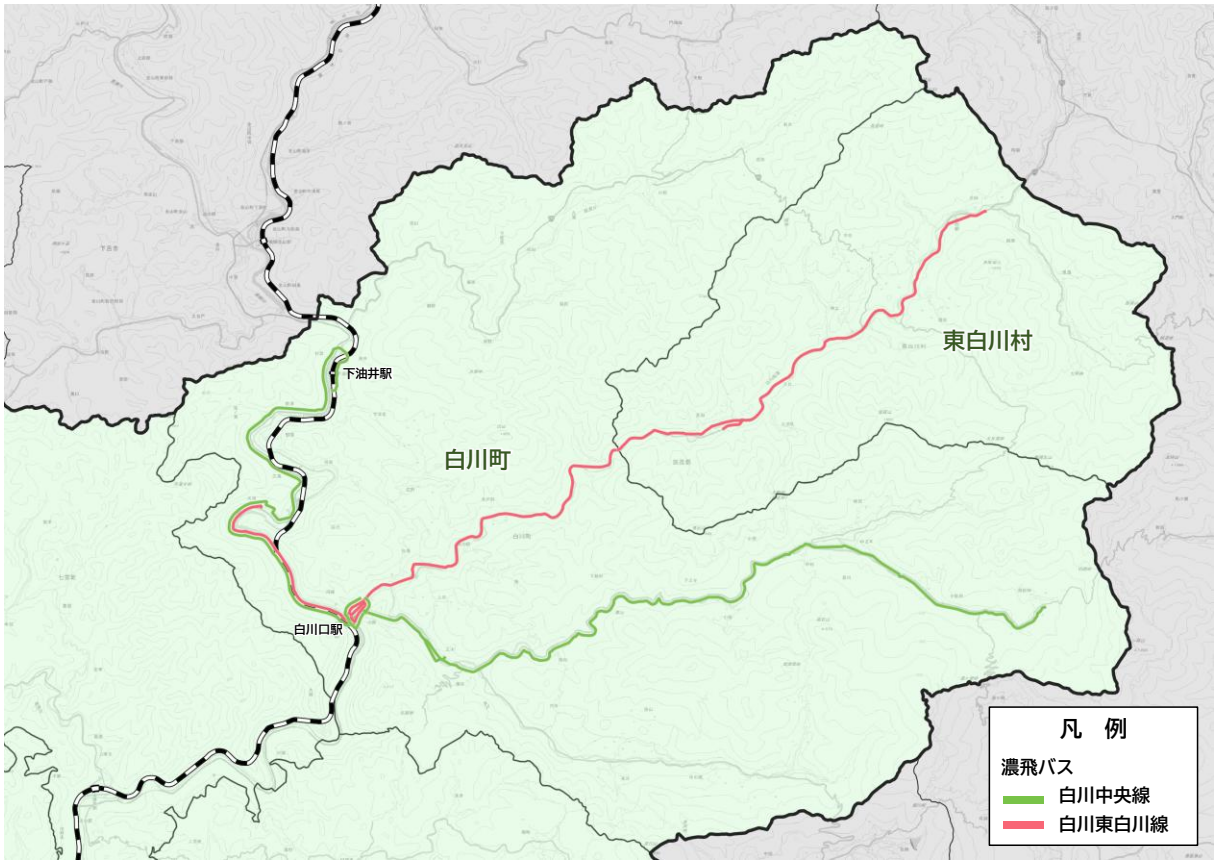
・圏域内には、JR高山本線、JR太多線、長良川鉄道越美南線が運行されています。
・このほか、圏域に隣接する可児市や御嵩町内を通過する名鉄広見線にも、圏域内からバスが接続しており、圏域内からも利用されています。



（2）営業路線バス



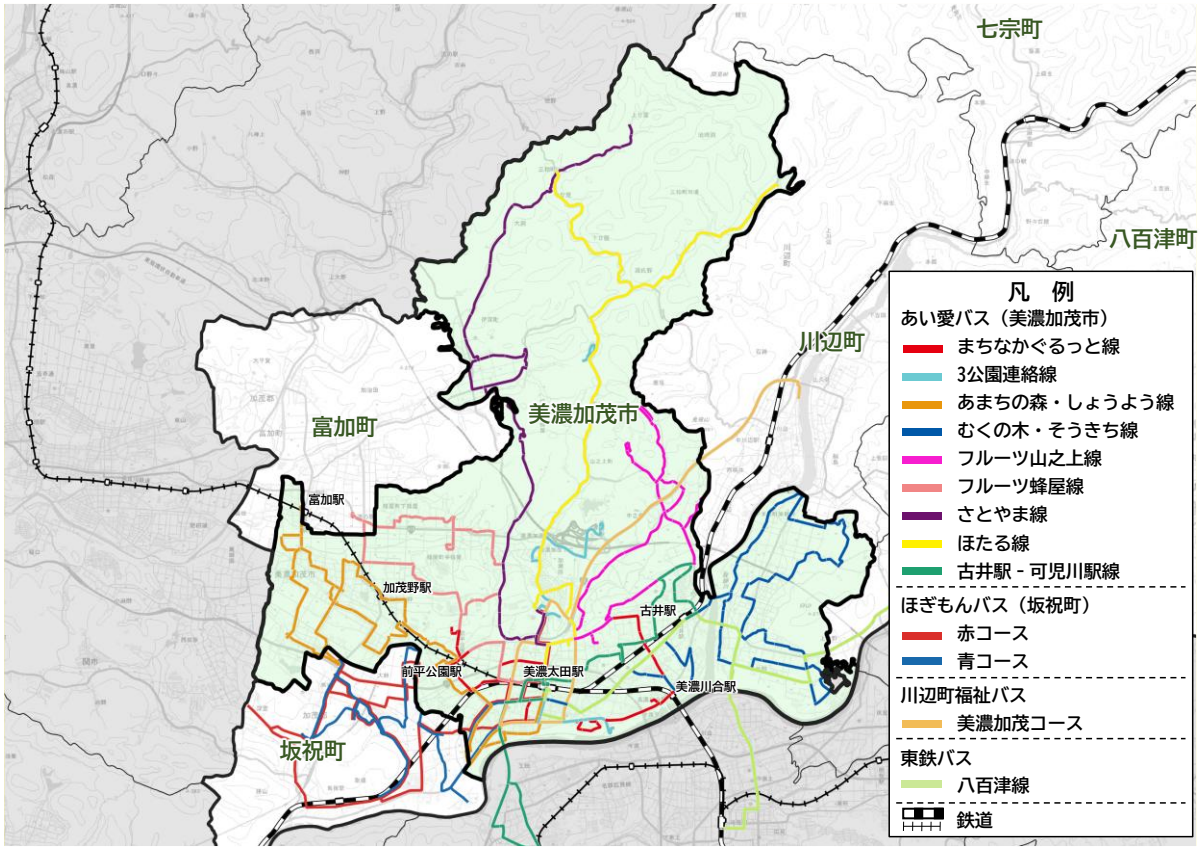
東鉄バス八百津線	
運行区間	■美濃太田系統：中部国際医療センター～美濃太田駅～八百津町ファミリーセンター前・八百津高校 ■可児系統：可児駅前～可茂特別支援学校
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・東濃鉄道(株)
運行事業者	・東濃鉄道(株)
運行概要	・美濃太田系統は平日のみ1日3往復、可児系統は平日のみ1日1往復が運行されています。 ・美濃太田系統は、美濃加茂方面からは八百津高校や可茂特別支援学校への通学等に、八百津方面からは可茂特別支援学校や加茂高校への通学、中部国際医療センターへの通院に利用されています。



濃飛バス白川中央線（おでかけしらかわ・ひがししらかわ）	
運行区間	■黒川ふれあいセンター～白川口駅～白川病院～下油井駅
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・白川町
運行事業者	・濃飛乗合自動車(株)
運行概要	・白川口駅と白川町黒川地区を結ぶ定時定路線バスで、高校の通学や通院等に利用されています。

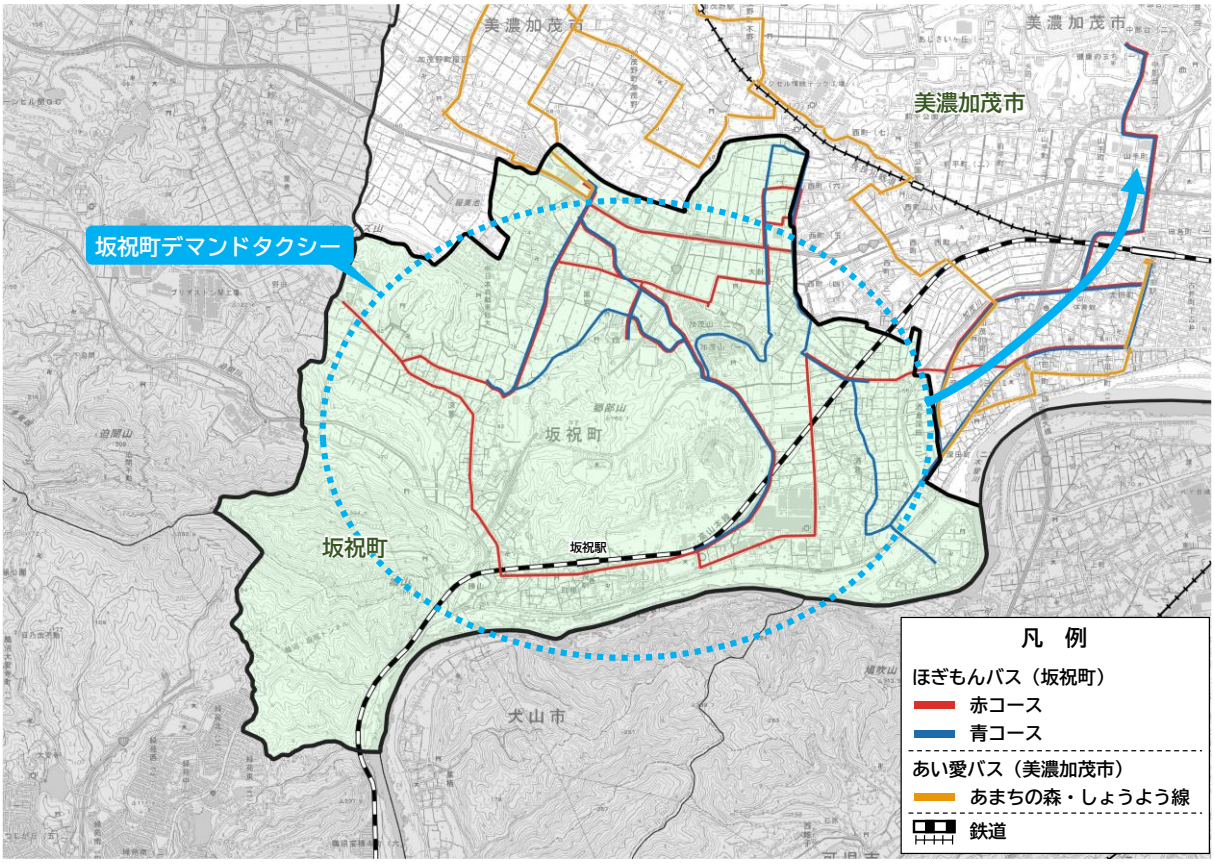
濃飛バス白川東白川線（おでかけしらかわ・ひがししらかわ）	
運行区間	■白川病院～白川口駅～東白川診療所～越原消防センター
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・濃飛乗合自動車(株)
運行事業者	・濃飛乗合自動車(株)
運行概要	・白川口駅と東白川村を結ぶ定時定路線バスで、高校の通学や通院等に利用されています。

（３）美濃加茂市



美濃加茂市　あい愛バス	
運行区間	■まちなかぐるっと線 ■3公園連絡線 ■あまちの森・しょうよう線 ■むくの木・そうきち線 ■フルーツ山之上線 ■フルーツ蜂屋線 ■さとやま線 ■ほたる線 ■古井駅-可児川駅線
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・美濃加茂市
運行事業者	・新太田タクシー(株)
運行概要	・定時定路線型のコミュニティバスで、9路線が運行されています。発着の基点となる美濃太田駅であい愛バス同士や鉄道と結節します。 ・市内全域を網羅的に早朝から夜間まで運行しており、通学・買い物・通院等の日常生活の足として利用されています。

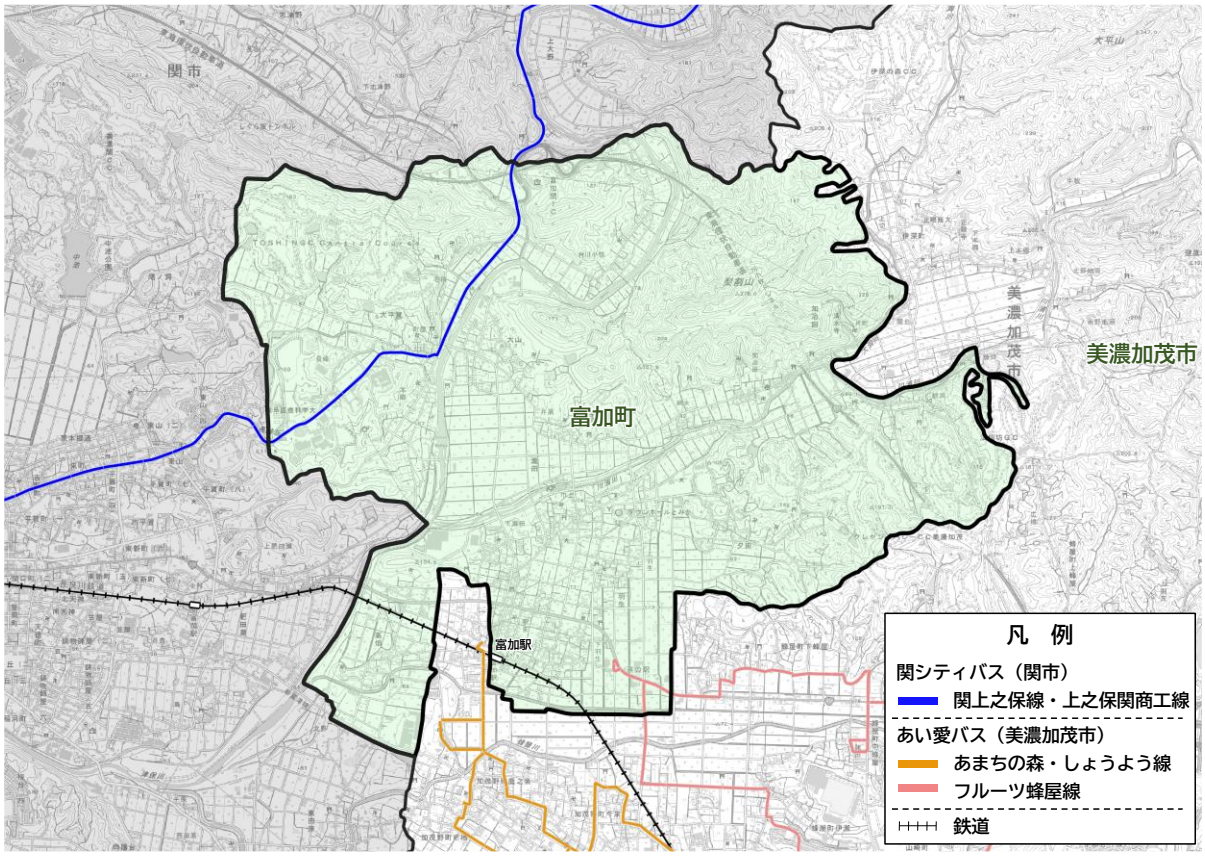
（4）坂祝町



坂祝町　ほぎもんバス	
運行区間	■赤コース：役場～中部国際医療センター ■青コース：役場～中部国際医療センター
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・坂祝町
運行事業者	・坂祝町
運行概要	・町民の方であれば無料で乗車することができる定時定路線型のコミュニティバスで、2路線が運行されています。 ・月曜日から土曜日まで午前7時台～午後4時台に運行されており、町内全域を網羅しています。 ・町外では、どちらの路線も美濃加茂市の中部国際医療センター、美濃太田駅、美濃加茂市役所、バロー太田店に行くことができます。

坂祝町　デマンドタクシー	
運行区間	■坂祝町内（一部美濃加茂市内に乗り入れ）
運行形態	・4条乗合（区域運行）
実施主体	・坂祝町
運行事業者	・岐阜交通東部株式会社
運行概要	・事前予約制のデマンド型交通で、平日と土曜日に運行されています。 ・利用できる方は満70歳以上の方や運転免許証を自主返納された方、妊娠中の方などの条件がありますが、停留所は商業施設や医療施設、公民館など細かく設置されているほか、事前登録すれば自宅前からの乗降も可能となります。 ・美濃加茂市にも10カ所の停留所が設置されており、美濃太田駅や中部国際医療センター、バロー太田店などへ行くことができます。

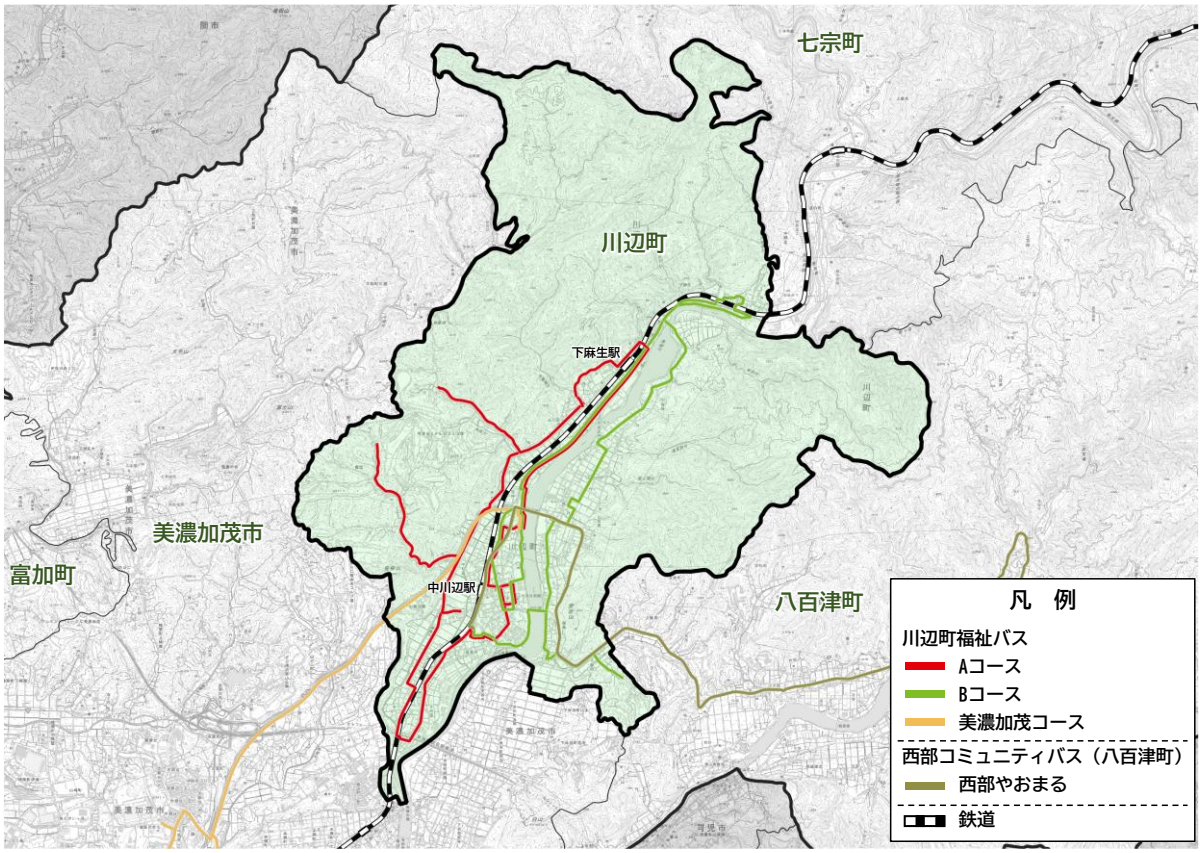
（５）富加町



富加町　高齢者等移動支援サービス事業	
運行区間	■富加町内
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・富加町
運行事業者	・富加町社会福祉協議会
運行概要	・富加町在住の概ね65歳以上の方で、移動にお困りの方を対象とした移動支援サービスで、平日午前9時～午後4時に運行されています。 ・事前に予約が必要で、行先は原則町内に限ります。 ・利用料は無料で、週3回まで利用ができます。

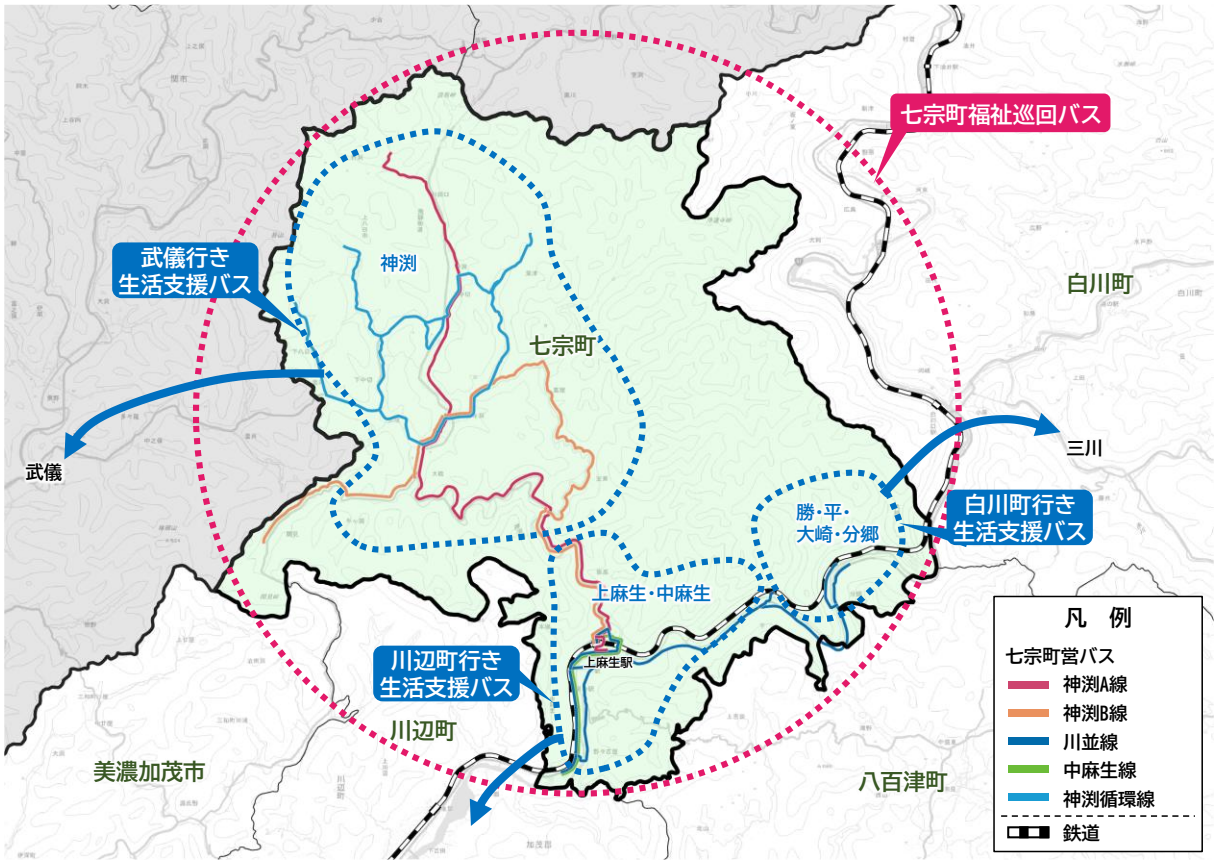
関市　関シティバス	
運行区間	■関上之保線　　：中濃厚生病院～武儀生涯学習センター～上之保事務所 ■上之保関商工線：関商工前～武儀生涯学習センター～上之保事務所
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・関市
運行事業者	・岐阜乗合自動車(株)
運行概要	・関市が運行する定時定路線型のコミュニティバスで、一部富加町内に乗り入れています。 ・富加町北部から中濃厚生病院や関駅(関シティターミナル)まで行くことができます。

（６）川辺町



川辺町　福祉バス	
運行区間	■Aコース　■Bコース　■美濃加茂コース
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・川辺町
運行事業者	・川辺町社会福祉協議会
運行概要	・川辺町社会福祉協議会が運行する定時定路線型のバスで、町民に限定せずどなたでも無料で利用できます。 ・平日と土曜日に運行されています。 ・Aコース及びBコースはやすらぎの家を起点に町内を巡回し、美濃加茂コースは市町境を越えて、美濃加茂市内の中部国際医療センター、美濃太田駅等に乗り入れています。

（7）七宗町

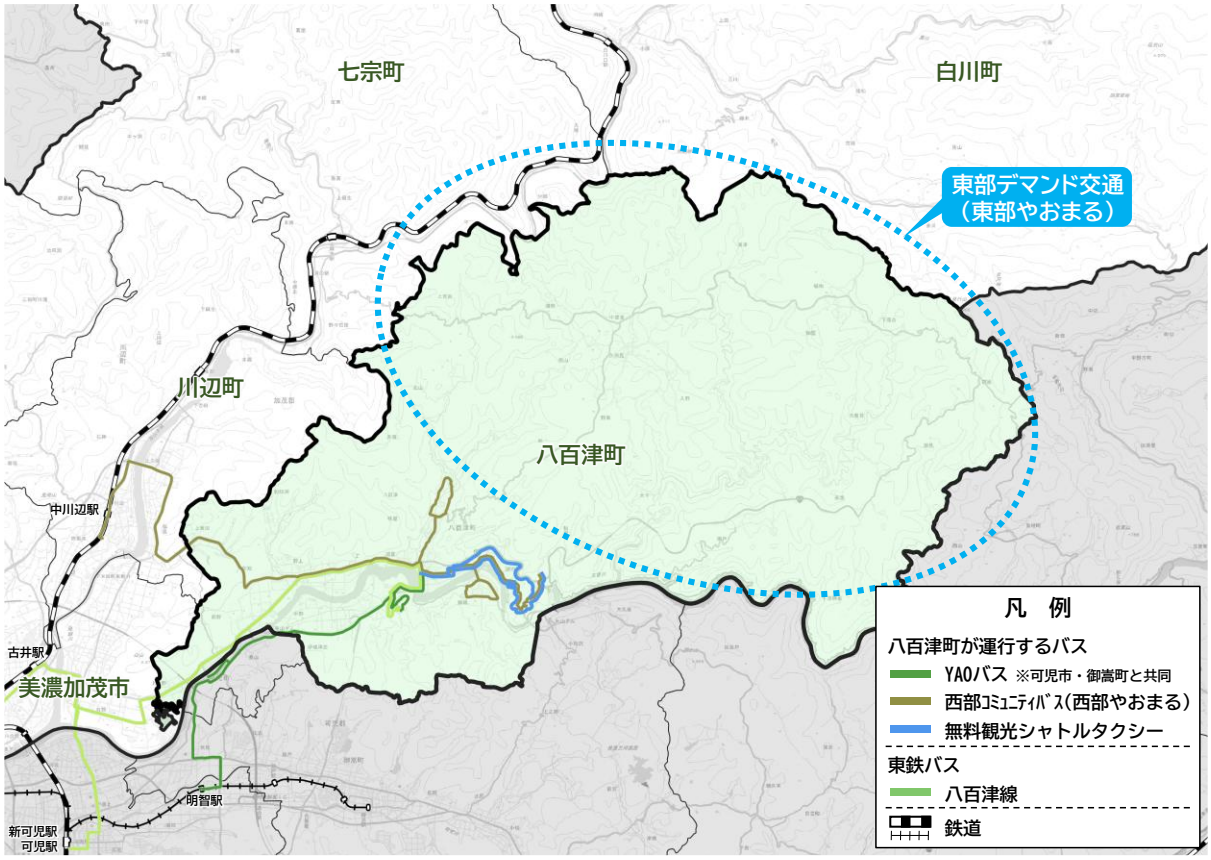


七宗町営バス	
運行区間	定期定路線 ■神渕A線（平日・土曜日） ■神渕B線 ■中麻生線 デマンド型路線 ■神渕A線（日曜日・祝日） ■川並線 ■神渕循環線
運行形態	・自家用有償運送（交通空白）
実施主体	・七宗町
運行事業者	・七宗町
運行概要	・定期定路線と事前予約制のデマンド型路線が運行されています。 ・各路線は、JR上麻生駅を結節点として、町内の神渕地区、川並地区、上麻生・中麻生地区の間で運行されています。 ・平日は通学の利用が多く、JR高山線に乗り継いで高校への通学にも利用されています。 ・神渕線A線(定期定路線)、神渕B線、中麻生線は平日・土曜日に運行されています。川並線は平日のみ、神渕A線(デマンド型路線)で日曜日・祝日に運行されています。

七宗町福祉巡回バス	
運行区間	■七宗町内
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・七宗町
運行事業者	・七宗町社会福祉協議会
運行概要	・町内を巡回する定時定路線型のバスで、町民に限定せずどなたでも無料で利用できます。 ・月、火、木、金曜日に運行されています。

七宗町生活支援バス	
運行区間	■川辺町行き生活支援バス（上麻生・中麻生地区対象） ■武儀行き生活支援バス（神渕地区対象） ■白川町行き生活支援バス（勝・平・大崎・分郷地区対象）
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・七宗町
運行事業者	・七宗町社会福祉協議会
運行概要	・食料品や日用品等の買い物をすることが困難な高齢者世帯等を対象としており、料金は無料です。 ・事前予約制でフリー乗降ではありますが、基本は各地区の福祉巡回バスのバス停で乗車し、町外の商業施設まで行くことができます。

（８）八百津町



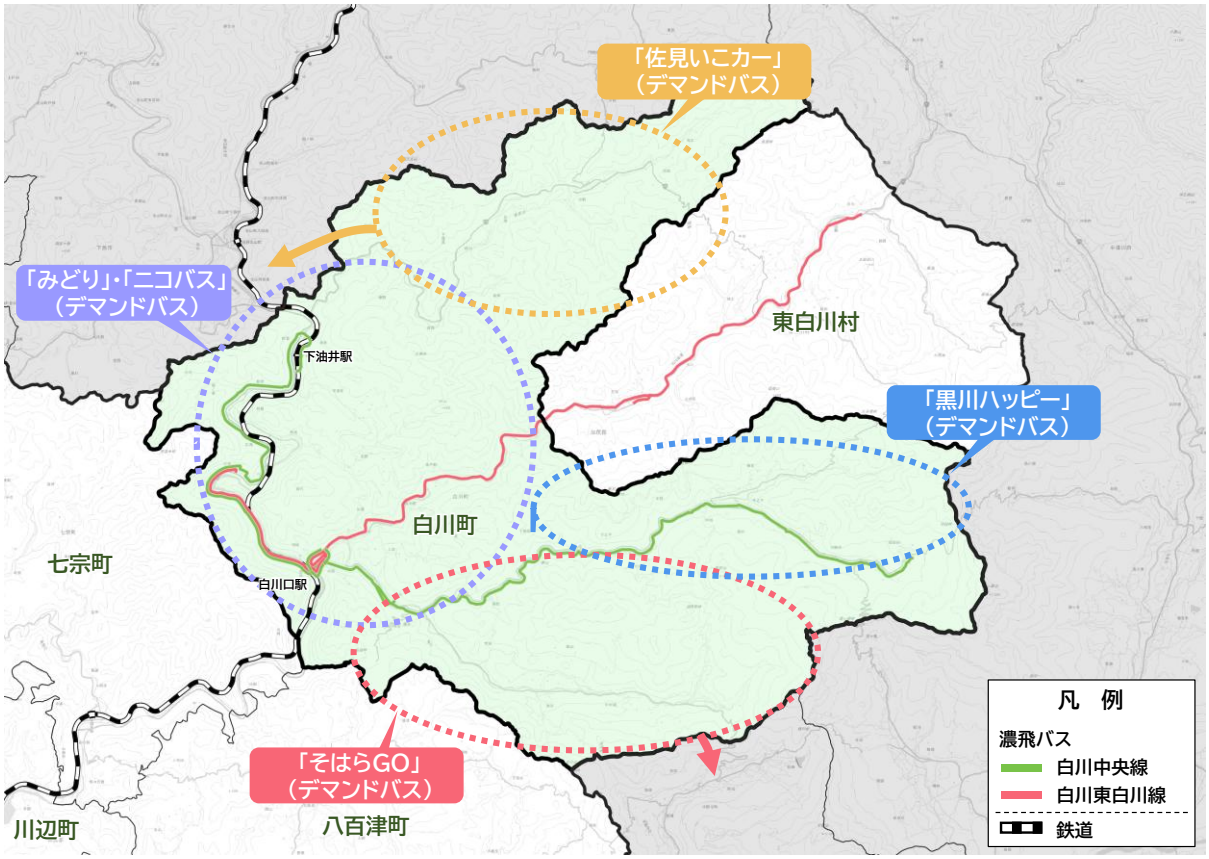
YAOバス（八百津町・可児市・御嵩町）	
運行区間	■八百津町ファミリーセンター～名鉄明智駅 ■八百津高校～名鉄明智駅
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・八百津町・可児市・御嵩町
運行事業者	・東濃鉄道(株)
運行概要	・旧名鉄八百津線の廃止代替として運行が開始された定時定路線型のバスで、明智駅～八百津町ファミリーセンター（一部八百津高校に乗り入れ）を結んでいます。 ・明智駅で名鉄広見線の列車と接続するダイヤが設定されています。

八百津町　西部コミュニティバス（西部やおまる）	
運行区間	■ピアゴ川辺店～八百津町ファミリーセンター～人道の丘
運行形態	・4条乗合（路線定期）
実施主体	・八百津町
運行事業者	・新太田タクシー(株)
運行概要	・定時定路線型のバスで、平日に運行されています。 ・川辺町内の一部区間を除き、フリー乗降制が導入されています。 ・八百津町ファミリーセンターを起点として、人道の丘や川辺町内のピアゴ川辺店方面に運行されています。

八百津町　東部デマンド交通（東部やおまる）	
運行区間	■久田見、福地、上吉田、八百津東部、八百津北部、潮南、恵那市
運行形態	・自家用有償運送（交通空白）
実施主体	・八百津町
運行事業者	・八百津町
運行概要	・事前予約制のデマンド型交通で、平日と土曜日に運行されています。 ・八百津町の北部・東部地区で運行されており、停留所は地区内の集落に細かく設置されているほか、八百津町市街地の「ファミリーセンター」、「八百津町役場」、「西友八百津店」にも設置されています。

八百津町　無料観光シャトルタクシー	
運行区間	■八百津町ファミリーセンター～杉原千畝記念館 ■八百津町本町～杉原千畝記念館
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・八百津町
運行事業者	・新太田タクシー(株)
運行概要	・杉原千畝記念館や丸山ダム方面への観光客向けに運行される無料の観光シャトルタクシーで、土日祝に運行されています。 ・八百津町ファミリーセンター、杉原千畝記念館、丸山ダム展望台・まるっとテラス、八百津本町（八百津商店街）を巡回するルートで運行されています。

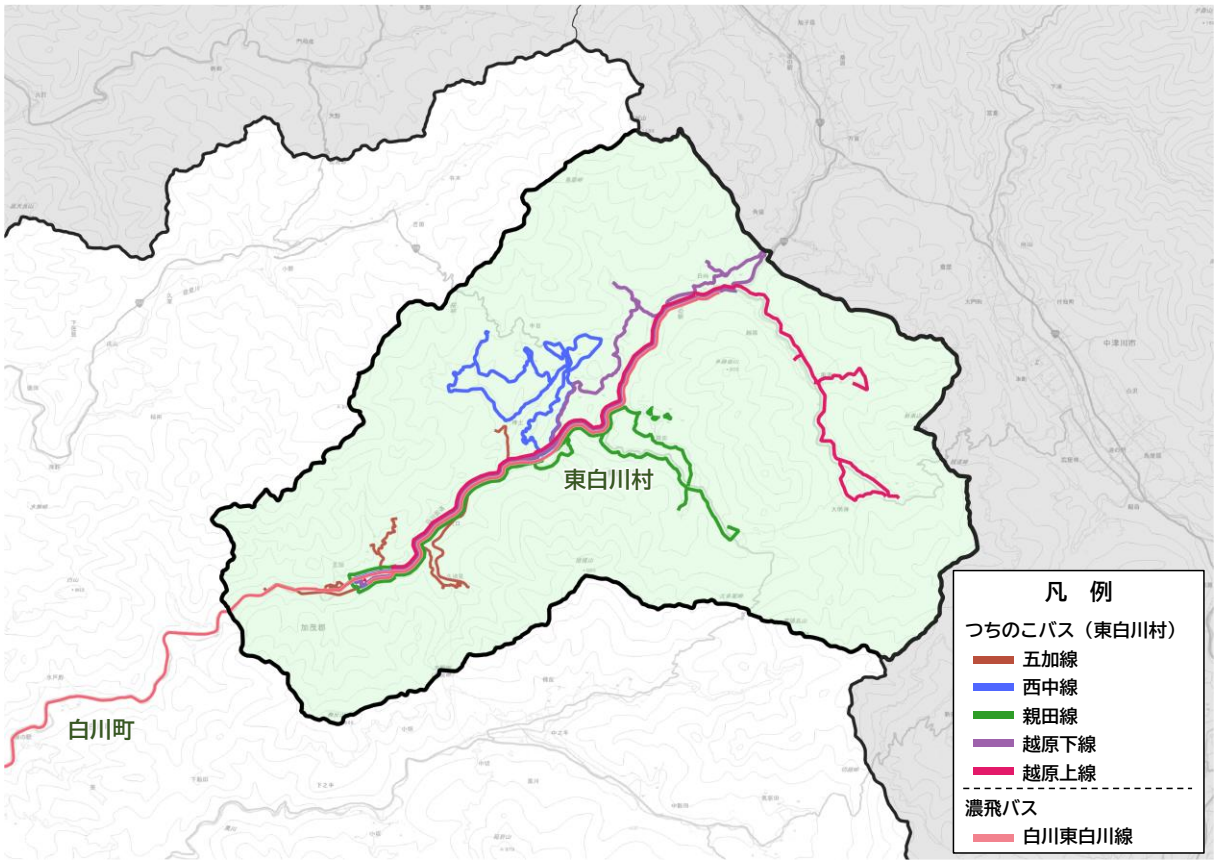
（９）白川町



白川町　予約制バス（各地区バス）	
運行区間	■白川・白川北地区：みどり・ニコバス ■蘇原地区：そはらGO ■黒川地区：黒川ハッピー ■佐見地区：佐見いこかー
運行形態	・自家用有償運送（交通空白）
実施主体	・白川町
運行事業者	・白川町社会福祉協議会 ・サンシャイン福祉振興会
運行概要	・事前予約制のデマンド型のバスで、毎日運行されています。 ・日中に町内各地から商業施設や医療施設へ行くのに利用されています。 ・白川町内の白川・白川北地区、蘇原地区、黒川地区、佐見地区の５地区でそれぞれのバスが運行されています。 ・佐見地区(佐見いこカー)は下呂市に、蘇原地区(そはらGO)は恵那市に乗り入れています。

白川町　予約制バス（ＪＲ接続便）	
運行区間	■白川・白川北地区：広島消防詰所～白川口駅、白川口駅～宇津尾茶工場 ■蘇原地区：塔洞～白川口駅 ■黒川地区：中新田消防詰所～白川口駅 ■佐見地区：栗林～白川口駅
運行形態	・自家用有償運送（交通空白）
実施主体	・白川町
運行事業者	・白川町社会福祉協議会 ・サンシャイン福祉振興会
運行概要	・事前予約制のデマンド型のバスで、毎日運行されています。 ・白川町内の各地区の予約制バス乗降場所からＪＲ白川口・下油井駅へ運行されています。朝（行き）と夕方（帰り）に運行されています。 ・JR白川口駅や下油井駅でJR高山本線に接続しており、高校生に多く利用されています。

（１０）東白川村



東白川村　つちのこバス	
運行区間	■五加線 ■西中線 ■親田線 ■越原下線 ■越原上線
運行形態	・道路運送法外
実施主体	・東白川村
運行事業者	・東白川村
運行概要	・令和6年10月に運行が開始された無料の定時定路線型のバスで、毎日運行されています。 ・保健福祉センターを起点として、東白川村内の越原地区、神土地区、五加地区の間に運行されています。 ・全区間でフリー乗降制が導入されており、ルート上であればどこからでも乗降できます。

２．公共交通の利用実態及びニーズに係る調査・分析

（１）住民アンケート調査

通勤

・圏域内への通勤では、自市町村内・美濃加茂市への通勤が最も多くなっています。
・圏域外への通勤では、各務原市・可児市など近隣市への通勤が多く、愛知県への通勤もみられます。北部では、下呂市や中津川市への通勤も一定数みられます。
・通勤時の交通手段は、91%が自動車(自分で運転)であり、公共交通利用者でも、最寄駅まで自動車(自分で運転)が41%、送迎が11%、自転車・徒歩が48%となっており、自動車を併用している割合が高くなっています。

通学(高校生)

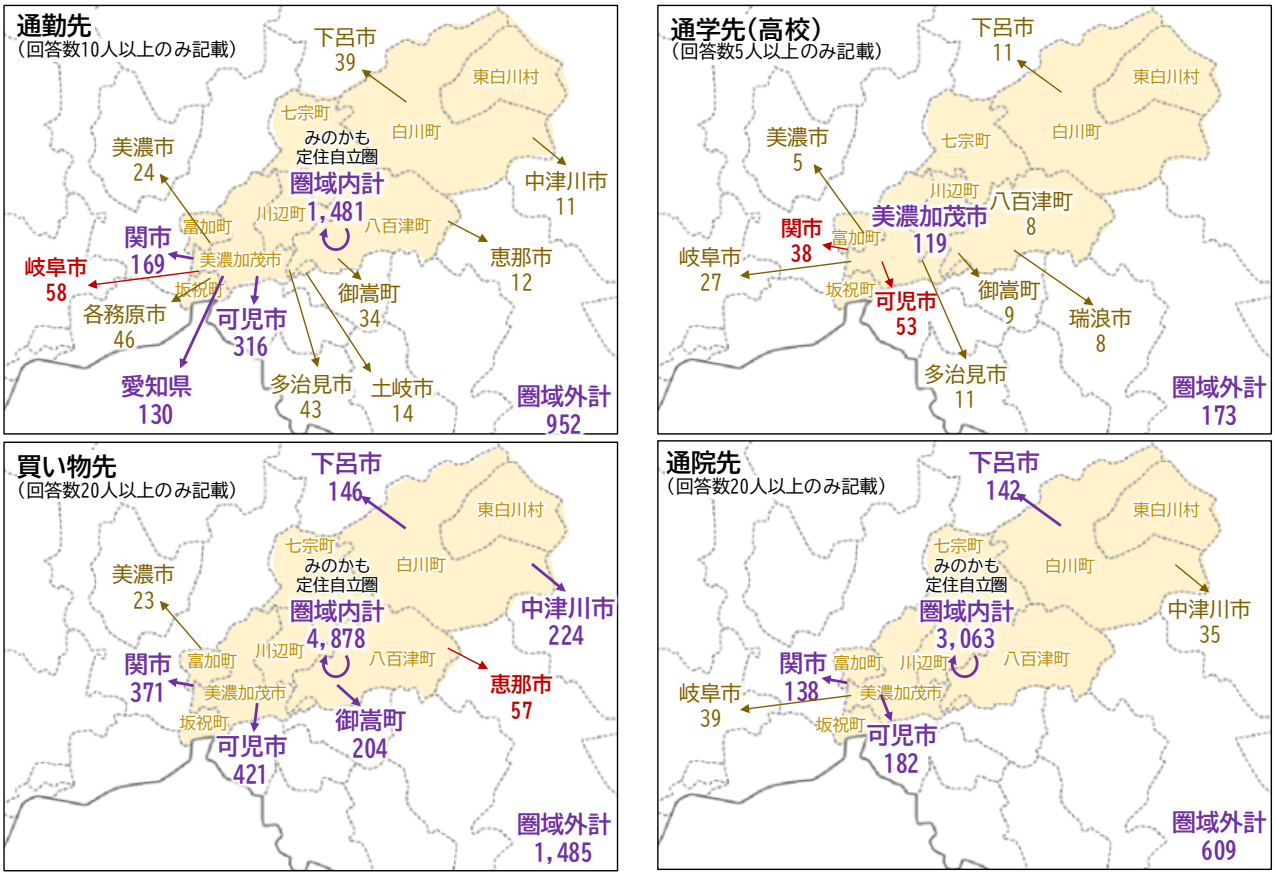
・東白川村を除き、美濃加茂市内の高校への通学が多く、美濃加茂市では関市や可児市、富加町では関市、八百津町では可児市等、圏域外の近隣市への通学も比較的多くなっています。
・東白川村は、美濃加茂市への通学は少なく、下呂市への通学が多いです。
・通学時の交通手段は、鉄道・バス利用が52%と多く、次いで自転車が28%、送迎が12%となっています。
・駅・バス停までの移動手段は、自転車・徒歩が54%、送迎が40%であり、送迎の割合が比較的高くなっています。

買い物

・交通手段は、自動車(自分で運転)が88%、送迎が7%であり、あわせて95%が自動車を利用しています。
・買い物は自市町村内の商業施設を利用する人が多くなっていますが、七宗町では川辺町、東白川村では中津川市が最も利用される買い物先となっています。

通院(高齢者)

・通院先は、自市町村内・美濃加茂市への通院が多くなっています。
・圏域外では、富加町は関市、八百津町は可児市、白川町・東白川村は下呂市への通院も比較的多いです。
・交通手段は、自動車(自分で運転)が71%、送迎が17%であり、あわせて88%が自動車を利用しています。



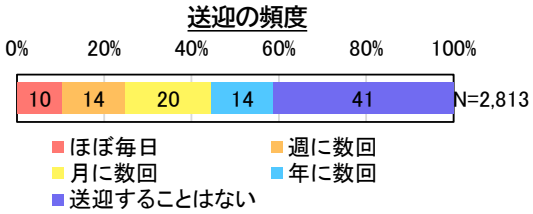
送迎について

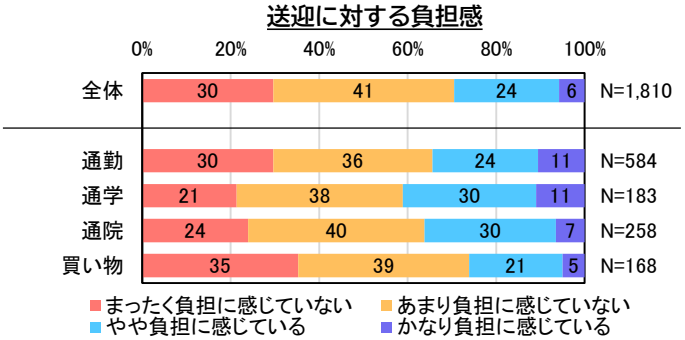
・自動車を運転している人のうち、24%は週に数回以上送迎しており、月に数回以上を含めると44%の人が日常的に送迎しています。

・送迎目的は、買い物が最も多く、次いで通院が多くなっています。

・送迎者は同居家族が79%だが、近所の知人等家族以外による送迎も10%程度みられています。

・送迎している人のうち、30%は送迎を負担に感じており、特に通学は41%と割合が高くなっています。

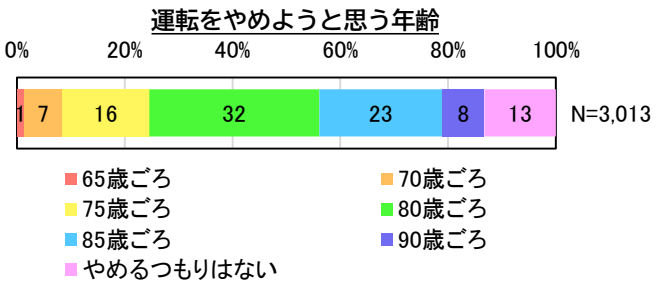




自動車の運転について

・自動車を運転している人のうち、20%は生活のためにやむなく運転しており、特に80歳以上は25%と割合が高くなっています。

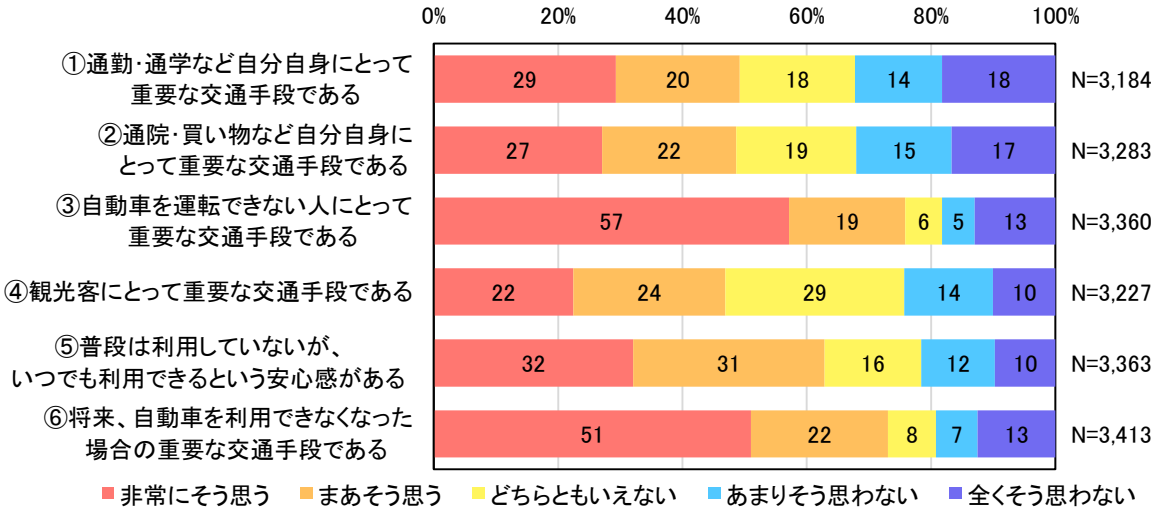
・運転をやめようと思う年齢は、80歳ごろが最も多く、全体の13%は「やめるつもりはない」と回答しています。



公共交通の役割に対する考え

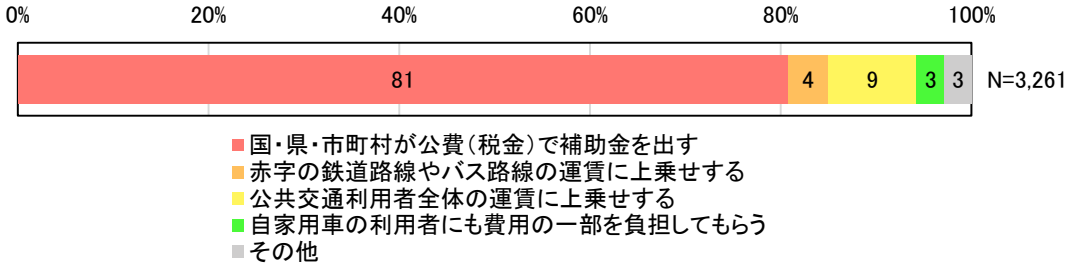
・いずれの項目も「そう思う」の割合が「そう思わない」の割合よりも高く、多くの人に圏域の公共交通は重要な交通手段として認識されていると考えられます。

・「③自動車を運転できない人にとって重要な交通手段である」、「⑥将来、自動車を利用できなくなった場合の重要な交通手段である」の割合が73～76%と高くなっています。



公共交通の維持に対する考え

・81%が「国・県・市町村が公費で補助金を出すべき」と回答しています。



（２）高校生アンケート・高校生保護者アンケート調査

通学手段

・各校とも、通学手段は通常時は自転車が最も多く、雨天時は送迎が最も多くなっています。

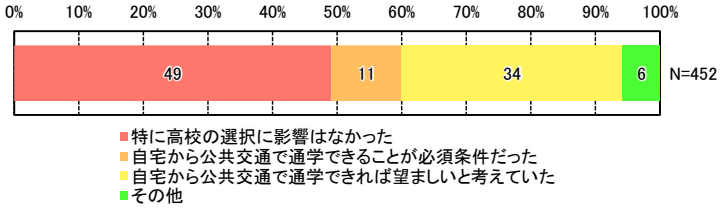
公共交通で通学する際に不満な点

・加茂高校、美濃加茂高校、加茂農林高校は「高校までの時間がかかる」が最も多い一方、八百津高校は「運賃が高い」が多くなっています。

高校選択時の公共交通での通学に対する考え

・高校選択時に「公共交通で通学できることが必須条件」、「公共交通で通学できれば望ましい」の合わせて44%は公共交通で通学できることが望まれています。

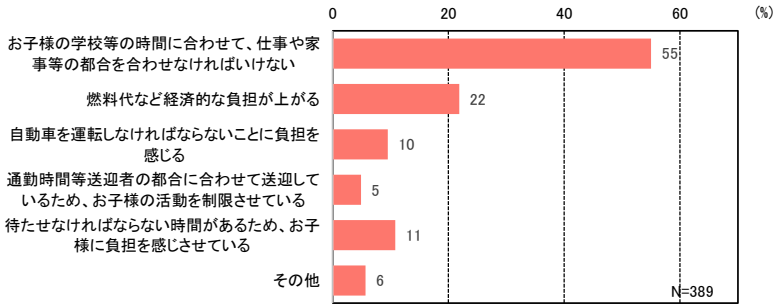
高校選択時の公共交通での通学に対する考え



送迎に対する負担感

・送迎している保護者の62%は、送迎が負担になっていると感じたことがあり、特に「学校の時間に合わせて、仕事や家事の都合を合わせなければならない」ことに負担を感じる人が多くなっています。

送迎を負担に感じる理由



（３）バス利用者アンケート調査

バス利用目的

	通勤	通学	通院	出張・業務	買い物・食事	観光	習い事・趣味	その他	
全体	12	18	35	1	25	3	5	13	N=237
あい愛バス	19	17	17		25	6	11	19	N=64
川辺町福祉バス	20		32	4	44		4	16	N=25
七宗町営バス		55	36		18				N=11
八百津町西部コミュニティバス			11		78			11	N=9
八百津町東部デマンド交通					50			50	N=2
東鉄バス八百津線	20	13	40		20			13	N=15
濃飛バス白川中央線	13		63		25			13	N=8
濃飛バス白川東白川線	6	22	39	6	11	17	6	11	N=18
白川町予約制バス（JR接続便）	12	50	27		12		4	8	N=26
白川町予約制バス（各地区バス	2	11	61		23		5	9	N=56

困っていること・公共交通に対する意見（主な意見）

路線	困っていること・公共交通に対する意見
美濃加茂市あい愛バス	・美濃太田駅での路線間やJRとの接続が悪い、往復での時間が合わない
川辺町福祉バス	・休日の移動が困る、美濃加茂市の病院に行きは行けるが帰りの足がない
七宗町営バス	・全便JRと接続してほしい、定住自立圏として圏域内を行き来しやすくしてほしい
八百津町西部コミバス	・西部コミバスとYAOバスのダイヤを接続してほしい
東鉄バス　八百津線	・本数が少ない、運賃が高い
白川町予約制バス（JR接続便）	・テストで早帰りの日は黒川方面に帰るバスがない

（４）施設利用者ヒアリング

困っていること・公共交通に対する意見（主な意見）

調査施設	困っていること・公共交通に対する意見
中部国際医療センター	・バスの本数が少ない、増便してほしい
白川病院	・免許返納者への支援がほしい、デマンドを直前まで予約できるようにしてほしい
ドン･キホーテ美濃加茂店	・路線が遠回りで分かりづらい、ベビーカーで利用しづらい
バロー富加店	・自動車でしか来られないので乗れなくなった後の移動が不安
ピアゴ川辺店	・バスに合わせて買い物するのは大変、免許返納しても福祉バスで生活するのは困難
マツオカ白川店	・買い物で利用するには使い勝手がよい
総合福祉会館	・路線が遠回り、使いたいタイミングが合わない
サンホーム七宗	・困っていることはない
古井駅	・テスト期間で午前中に授業が終わっても列車がなく昼過ぎまで帰れない ・朝の混雑を解消してほしい
美濃太田駅	・バスの本数が少ない、下呂方面の本数が少ない

（５）観光施設利用者ヒアリング

困っていること・公共交通に対する意見（主な意見）

調査施設	困っていること・公共交通に対する意見
人道の丘公園	・乗り換えが多く分かりづらい、観光タクシーの利用方法をPRすべき
クオーレふれあいの里	・ICカードを利用できるようにしてほしい
ぎふ清流里山公園	・遠回りで時間がかかる、利用方法が分からない、バスの本数を増やしてほしい、美濃太田駅の南口と北口での乗り継ぎが悪い

（６）運行事業者ヒアリング

対象事業者	主なヒアリング結果
鉄道事業者	・物価高騰等の影響で運行に係る費用が高額となっている。 ・高校生の通学利用が多い。 ・イベント時は利用者が増加するため、今後も自治体や関係者と連携して実施したい。
バス事業者	・利用者の減少は減少している一方で、運行経費が増加しており、補助金がないと運行継続が困難になる恐れがある。 ・運行に必要な運転手はぎりぎり確保できているものの、余裕のない状態が続いており、運転手不足が懸念される。 ・他路線との重複区間では、上手くすみ分けができるとよい。
社会福祉協議会	・運行経費が増加しており、将来的には補助金が必要になる。 ・新たな移動手段の導入や広域的な連携の検討が必要になる。 ・運転手は現状では足りているものの、運転手の高齢化が進んでおり、今後は運転手確保が課題である。 ・地域で送迎し合う支えもあるが、今後は難しくなる。

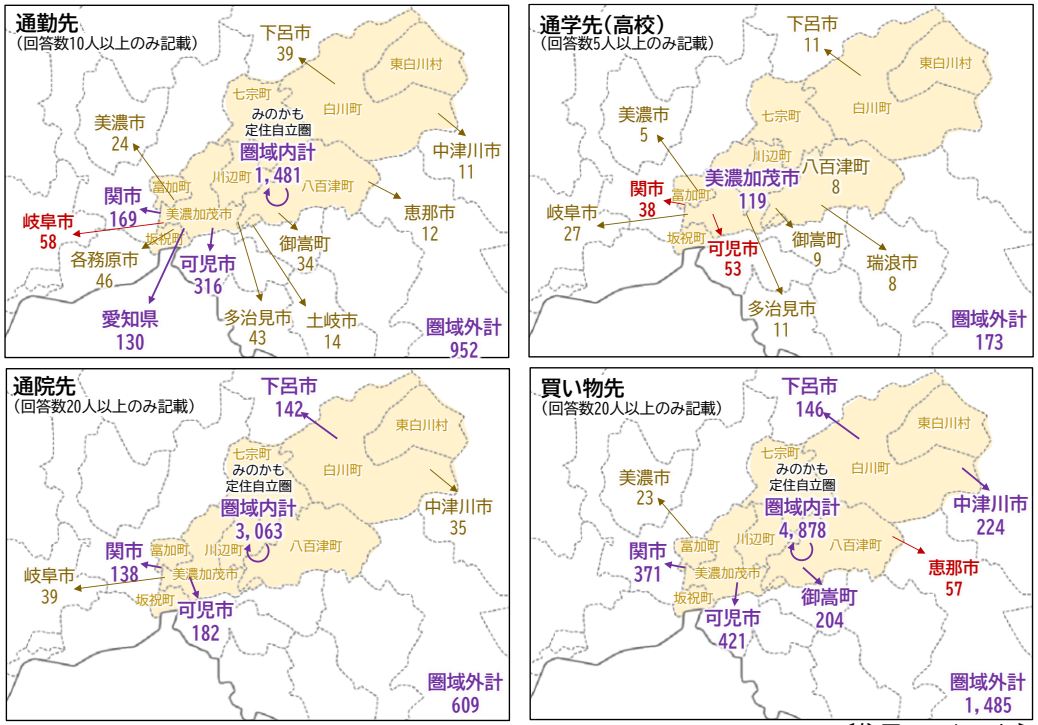
第３章　地域公共交通に係る課題

１．圏域全体の課題

（１）広域移動

現状	課題・今後の方向性
● 通勤・通学・通院・買い物等の日常生活において、圏域の中心都市である美濃加茂市への移動が多く、圏域外への一定数の移動がみられ、生活圏が比較的広範囲となっています。	広域移動の足を確保するため、圏域内の市町村が連携し、複数の幹線交通をつなぐネットワークを構築し、美濃加茂市等の移動ニーズの大きい地域へのアクセス向上を図る必要があります。

目的別市町村間ＯＤ図



〔住民アンケート〕

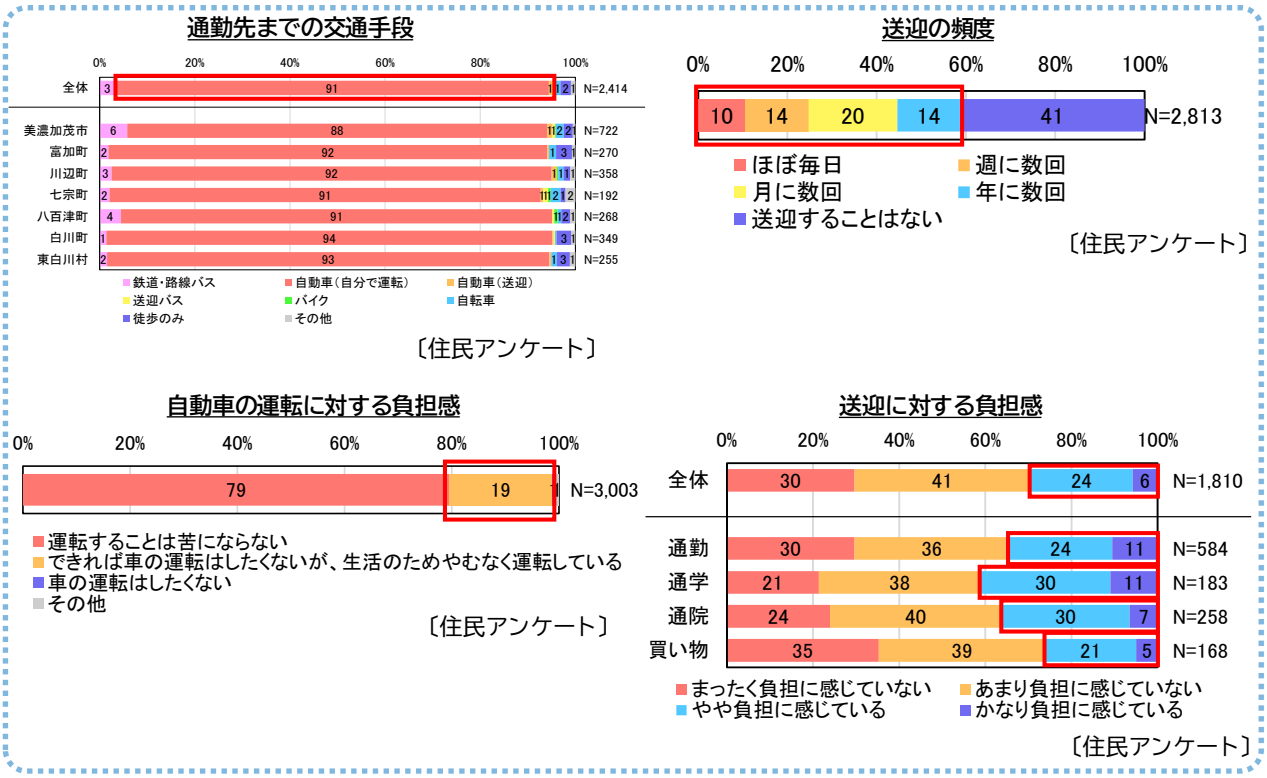
市町村間ＯＤ表（平日）

	美濃加茂市	坂祝町	富加町	川辺町	七宗町	八百津町	白川町	東白川村	関市	中津川市	可児市	下呂市	愛知県	その他	合計
美濃加茂市	1,010	36	20	29	7	20	7	1	62	2	168	6	91	165	1,623
坂祝町	38	81	3	1	1	1	0	0	12	0	11	1	18	31	198
富加町	21	2	81	2	1	1	1	0	22	0	3	1	7	20	161
川辺町	28	1	2	103	2	3	2	0	5	1	19	1	9	17	193
七宗町	8	1	1	3	29	0	2	0	1	0	2	3	3	2	55
八百津町	19	1	1	3	0	139	0	0	2	1	31	0	14	21	232
白川町	7	0	0	1	2	0	118	0	2	2	5	7	5	9	158
東白川村	1	0	0	0	0	0	1	19	0	2	0	1	1	1	26
関市	62	11	22	5	1	2	1	0							
中津川市	2	0	0	0	0	1	2	1							
可児市	164	10	3	20	1	30	4	1							
下呂市	5	1	1	1	3	0	9	1							
愛知県	92	19	8	9	2	15	3	1							
その他	163	35	18	16	3	22	9	1							
合計	1,621	198	160	194	54	234	158	25							

〔人流データ〕

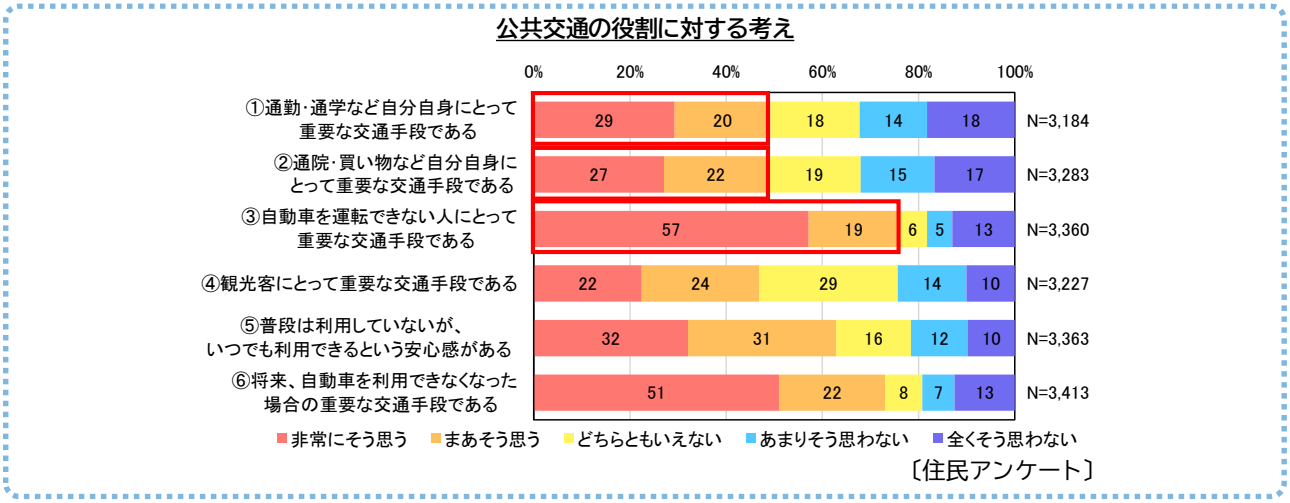
（２）運転・送迎に対する負担

現状	課題・今後の方向性
● 自動車を利用した移動が多く、送迎をしている人も多くなっていますが、送迎や運転そのものに対して負担を感じている人も多くなっています。	少しでも運転の負担の軽減や、送迎の解消・送迎距離の短縮が図れるようにするため、必要な公共交通を確保していく必要があります。



（３）公共交通に対する意識

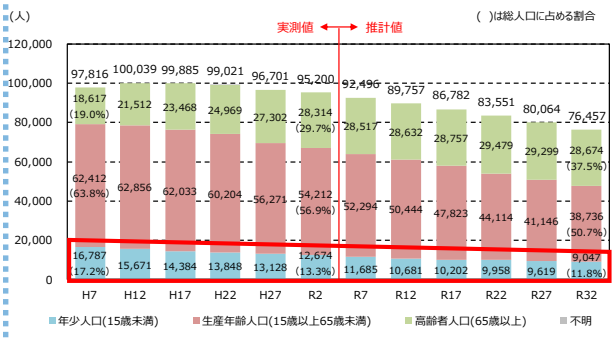
現状	課題・今後の方向性
● 通勤・通学・通院・買い物時や、自動車を運転できない人にとって、公共交通は重要な交通手段と認識されている人が多くなっています。	日常生活での足を確保するため、今後も圏域内の公共交通を維持していく必要がある。



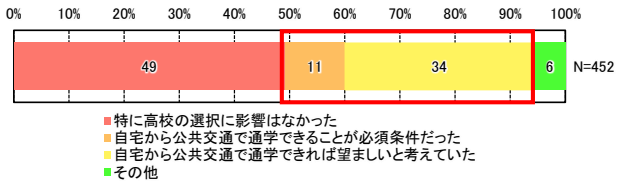
（４）通学手段

現状	課題・今後の方向性
● 今後、通学需要の減少が見込まれる中、高校選択時に公共交通で通学できることが望まれています。 ● 鉄道やバスでの通学で不便な点として、「高校までの時間がかかる」、「運賃が高い」といった意見がみられています。	通学用の公共交通の確保は将来の人口流出抑制につながることから、圏域内外の学校に通う高校生等の通学手段を確保する必要があります。 通学ニーズに応じた公共交通サービスとなるよう、改善を図る必要があります。

圏域全体の人口推移と将来予測

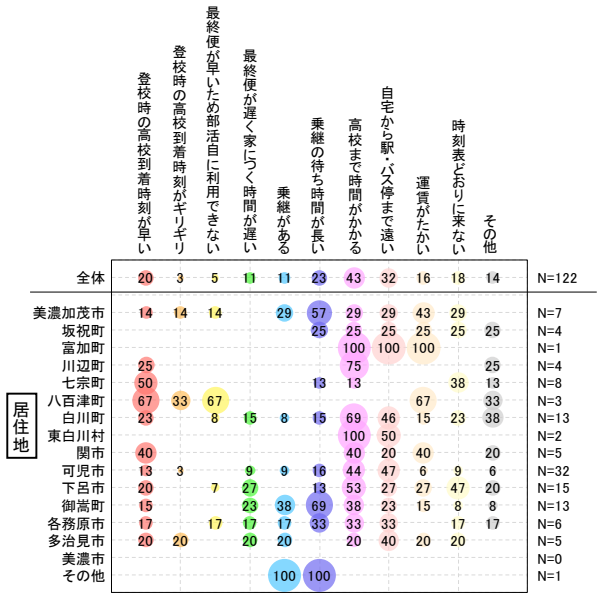


高校選択時の公共交通での通学に対する考え



〔高校生・高校生保護者アンケート〕

鉄道やバスでの通学で不便な点（加茂高校）



〔高校生・高校生保護者アンケート〕

（５）持続可能な公共交通の確保

現状	課題・今後の方向性
● バス事業者やタクシー事業者の運転手不足と高齢化が深刻化しており、公共交通の存続が困難になりつつあります。	交通事業者と各市町村が連携し、運転手の確保と雇用環境改善を進める必要があります。
● 物価高騰や人件費高騰に伴い、同じサービスを提供する場合でも運行経費が増加しており、公共交通の存続が困難になりつつあります。	関係者が連携し、地域住民や観光客の移動に必要なサービスを提供しつつ、効率的な運行を図る必要があります。

２．各エリアにおける課題

（１）美濃加茂市

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 市内全域であい愛バスが運行されており、すべての路線がJR美濃太田駅に接続しています。 ● あい愛バスから鉄道に乗り継ぐことで各方面への移動が可能です。 ● 高山本線とあい愛バスの乗り継ぎが悪い時間帯があります。［施設利用者ヒアリング］ **【利用実態・移動ニーズ】** ● 圏域内の各町村から美濃加茂市への移動が多くなっています。［住民アンケート・人流データ］ ● 名鉄可児川駅から美濃加茂高校方面への通学利用が多く、積み残しによる増車対応が行われています。 ● 古井駅から可児市・御嵩町方面の高校まで自転車で通学している生徒が一定数みられます。［施設利用者ヒアリング］ ● 市周辺部では隣接町の施設（商業・医療）への移動ニーズが高く、個別で対応する必要があります。（例：蜂屋地区⇔富加町、三和地区⇔川辺町）［施設利用者ヒアリング・人流データ・住民懇談会］	**【広域公共交通ネットワークの確保】** 圏域内の各町村からの幹線公共交通を維持し、市外からの来訪者が美濃太田駅等の拠点で乗り継ぐことで市内目的地に移動できる公共交通ネットワークを引き続き確保してく必要があります。 **【通学に便利な公共交通ネットワークの整備】** 名鉄可児川駅から美濃加茂高校方面や古井駅から可児市・御嵩町方面など、高校への通学に利用しやすい公共交通ネットワークを整備する必要があります。 **【隣接市町との連携】** 市周辺部から市外への日常生活の移動ニーズについて、隣接町とのバスの相互乗り入れ等、引き続き連携を図っていく必要があります。

（２）坂祝町

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● JR高山本線の坂祝駅があり、岐阜市方面、美濃加茂市方面へのアクセスが可能です。 ● 町内の移動手段として定時定路線型のほぎもんバスや、高齢者等移動に不便をきたしている方を対象としたデマンドタクシーが運行しています。 ● ほぎもんバスやデマンドタクシーにより、美濃加茂市の中部国際医療センターやバロー太田店などへのアクセスも可能です。 **【利用実態・移動ニーズ】** ● 町内には商業施設や医療施設が少ないため、美濃加茂市方面での通院や買い物を目的とした移動ニーズが高く、町民による美濃加茂市内への移動が多く見られます。[住民アンケート・人流データ]	**【通学に便利な公共交通ネットワークの維持】** 引き続き高校への通学に利用しやすい公共交通ネットワークを維持する必要があります。 **【隣接市町との連携】** 市町境付近に立地する施設（バロー太田店等）へのアクセスについて、需要も考慮しながら、隣接市町のバスの乗り入れ等、引き続き連携を図っていく必要があります。

（３）富加町

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 町内には長良川鉄道富加駅があるほか、関シティバス、あい愛バスが乗り入れており、美濃加茂市や関市へのアクセスが可能です。 ● 高校生は、北部では関シティバス、南部では長良川鉄道を利用して通学が可能です。 ● 高齢者等移動支援事業により一部の町民は駅等への移動が可能ですが、対象者以外は駅やバス停に接続する公共交通がなく、移動しづらい地域が存在します。 【利用実態・移動ニーズ】 ● 町内から美濃加茂市や関市への移動が多くなっています。[住民アンケート・人流データ] ● 高齢者等移動支援事業の対象者以外の町内の移動に関しては、現状困っている人は少ない状況です。[住民アンケート] ● バロー富加店はあい愛バス等を活用した美濃加茂市西部（蜂屋地区等）からの利用があります。[施設利用者ヒアリング・人流データ]	【広域公共交通ネットワークの確保】 引き続き、周辺市を結ぶ鉄道・バスを維持し、通学や通院に利用可能な周辺への広域公共交通ネットワークを確保していく必要があります。 【ラストワンマイル交通の確保】 現状では駅やバス停までの移動に困っているという意見は少ないものの、各地区から駅・バス停までの公共交通手段確保の必要性について長期的に検討していく必要があります。 【近隣市町と連携した公共交通の確保】 市町境付近に立地する施設（バロー富加店等）へのアクセスについて、需要も考慮しながら、隣接市町のバスの乗り入れ等、引き続き連携を図っていく必要があります。

（４）川辺町

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 町内にはJR高山本線の中川辺駅、下麻生駅があるほか、川辺町福祉バスが運行されています。 ● JR高山本線や川辺町福祉バスにより、美濃加茂市方面へのアクセスが可能です。 ● 通学は中川辺駅からJR高山本線が利用可能ですが、駅までは公共交通以外でアクセスする必要があります ● 福祉バスは、全バス停から美濃加茂方面に利用できるダイヤが設定されています。 **【利用実態・移動ニーズ】** ● 町内から美濃加茂市への移動ニーズが高くなっています。 ● 通学のための中川辺駅までのアクセスについては、特に要望意見はありません。 ● 福祉バスは、利用が伸び悩んでいます。［利用実績］ ● 美濃加茂市三和地区から川辺町内の施設（商業・医療）へのニーズがあるものの、現状の公共交通では行きづらい状況です。［住民懇談会］	**【福祉バス（美濃加茂便）の利便性向上】** 美濃加茂市内の施設等に直接乗り入れている福祉バスの美濃加茂系統について、美濃加茂市内のバス停設定や時間帯等、利便性向上を図る必要があります。 **【通学に便利な公共交通ネットワークの維持】** 引き続き高校への通学に利用しやすい公共交通ネットワークを維持する必要があります。 **【隣接市町との連携】** 三和地区～川辺町間の公共交通手段確保の必要性や方法について検証する必要があります。（例：市町境付近での接続、美濃太田駅経由でのダイヤ調整・案内等）

（５）七宗町

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 町内にはJR高山本線の上麻生駅があり、美濃加茂市方面へのアクセスが可能です。 ● 上麻生駅を拠点に七宗町営バスが運行されているほか、福祉巡回バスと七宗町生活支援バスが運行されています。 **【利用実態・移動ニーズ】** ● 七宗町営バスは、JR高山本線と乗り継いで主に高校生の通学に利用されています。 ● 高校への通学では、七宗町営バスとJRとの乗り継ぎ利便性に対して不満の声がみられます。[利用者アンケート] ● 福祉巡回バスと七宗町生活支援バスは主に高齢者の買い物や通院に利用されています。 ● 町内に商業施設や医療施設が少なく、美濃加茂市内やピアゴ川辺店、マツオカ武儀店等への移動ニーズが高いため、生活支援バスで町外への移動ができるようになっていますが、現状の公共交通では不便との声があります。[利用者アンケート、人流データ]	**【町営バスとJR高山本線の接続の維持】** 町外への通学や通院に公共交通が利用できるよう、七宗町営バスと上麻生駅との接続ダイヤを維持（一部改善）していく必要があります。 **【買い物ニーズに合った公共交通サービスの改善】** 近隣市町への買い物ニーズについて検証したうえで、ニーズに対応した移動手段を確保する必要があります。 **【福祉政策と連携した公共交通の構築】** 七宗町営バスと福祉巡回バス・七宗町生活支援バスの連携による利便性・効率性の向上を検討する必要があります。

（６）八百津町

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 町外へのアクセス手段として、美濃加茂市方面へは東鉄八百津線、可児市・御嵩町方面へはYAOバスが運行されています。 ● 町内では定時定路線の西部やおまる、デマンド交通の東部やおまるがエリアを分けて運行しています。西部やおまるは川辺町に乗り入れています。 ● 観光地である人道の丘周辺への移動手段として、西部やおまるが利用できるほか、無料観光シャトルタクシーも運行されています。しかし、町外から観光地へアクセスするには名鉄、YAOバス、西部やおまる等と複数回乗り継ぐ必要があります。 **【利用実態・移動ニーズ】** ● 美濃加茂市、可児市への移動ニーズが高くなっていますが、現行の定時定路線バスについて運行本数や時間帯等について不便との意見が聞かれます。［住民アンケート］ ● 東鉄バス八百津線は、八百津高校や美濃加茂市内の高校への通学手段、中部国際医療センターへの通院手段として重要な機能を果たしている一方で、利用者数が大きく減少し、国庫補助対象外となり、路線の存続が厳しい状況です。［住民アンケート、利用者アンケート］ ● 東部やおまるの利用者数は増加している一方で、西部やおまるは、利用者数が低迷しています。［利用実績］ ● 無料観光シャトルタクシーの認知度は低い状況です。［観光施設ヒアリング］	**【幹線交通の維持】** 東鉄バス八百津線、YAOバスについては、通学や通院の足を確保するため、名鉄広見線の動向にも注視しながら、今後も運行継続するとともに、負担金割合や運行形態の見直し等、持続可能な路線となるよう検討する必要があります。 **【実態・ニーズに合わせた運行サービスへの見直し】** 八百津町～川辺町間の双方向の移動実態・移動ニーズについて検証したうえで、路線や運行ダイヤの見直しを検討する必要があります。 **【地域別ニーズへの対応】** 地域ごとの利用実態とニーズを把握したうえで、デマンド型交通の拡充を含む路線や運行形態の見直しを検討する必要があります。 **【観光資源との連携】** 観光客が観光地への移動をスムーズに行えるよう、公共交通によるアクセスの周知を図り、地域の集客力とアクセス向上の両立を図る必要があります。

（7）白川町

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 町内にはJR高山本線の白川口駅や下油井駅があり、美濃加茂市方面へのアクセスが可能です。 ● JR高山本線の白川口駅や下油井駅までは、濃飛バス白川中央線や予約制バスのＪＲ接続便により、町内各地からアクセスが可能です。 ● 町内の移動手段として、町内各地区にデマンド型の予約制バスが運行しています。 【利用実態・移動ニーズ】 ● JR高山本線と町内の公共交通を乗り継ぐことで、各地区から美濃加茂方面の高校への通学や通院が多くなっています。	【JR高山本線と連携したネットワークの維持】 引き続き、各地区から駅までのアクセスを確保し、JR高山本線との連携により、限られた資源の中で必要な通学や通院手段を確保していく必要があります。

（8）東白川村

現状	課題・今後の方向性
【サービス】 ● 村内の移動手段として、村内各地区を毎日運行するつちのこバス（定時定路線）が運行しています。 ● 濃飛バス白川東白川線とJR高山本線を乗り継ぐことで美濃加茂市方面へのアクセスが可能です。 【利用実態・移動ニーズ】 ● 白川東白川線とJR高山本線を乗り継ぎ高校への通学に利用されているほか、白川東白川線は白川病院への通院にも利用されています。 ● 白川東白川線とつちのこバスの重複区間において、従来の白川東白川線の利用者の中には、つちのこバスに転換した利用者もみられます。	【つちのこバスと白川東白川線の連携】 引き続き、つちのこバスと白川東白川線の連携を確保し、村内の各地区から白川町方面へ移動できるサービスを確保していく必要があります。 【JR高山本線と連携したネットワークの維持】 引き続き、JR高山本線との連携により、限られた資源の中で必要な通学や通院手段を確保していく必要があります。

第４章　構想の基本的な考え方

１．基本理念と４つの目標

みのかも定住自立圏第4次共生ビジョンでは、「住み続けたい、住んでみたいまち」と思える圏域を目指しています。この将来像を踏まえ、本構想の基本理念と4つの目標を設定しました。

基本理念

「住み続けたいまち、住んでみたいまち」の実現
～地域が連携した公共交通ネットワークの構築～

目標１　地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築

- 広域連携路線の整備や市町村境付近での相互乗り入れ等、圏域内の市町村が連携することで、需要の高い地域間の移動に必要な公共交通手段を確保し、利便性向上を図ります。
- さまざまな地域へ移動できるようにするため、各路線を交通拠点で接続させた公共交通網を構築します。

目標２　高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保

- 高校生や高齢者等の日常生活での移動の利便性を向上させるため、通学・買い物・通院等の生活交通を確保することで、家族の送迎の負担の軽減や人口流出の抑制を図ります。

目標３　情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進

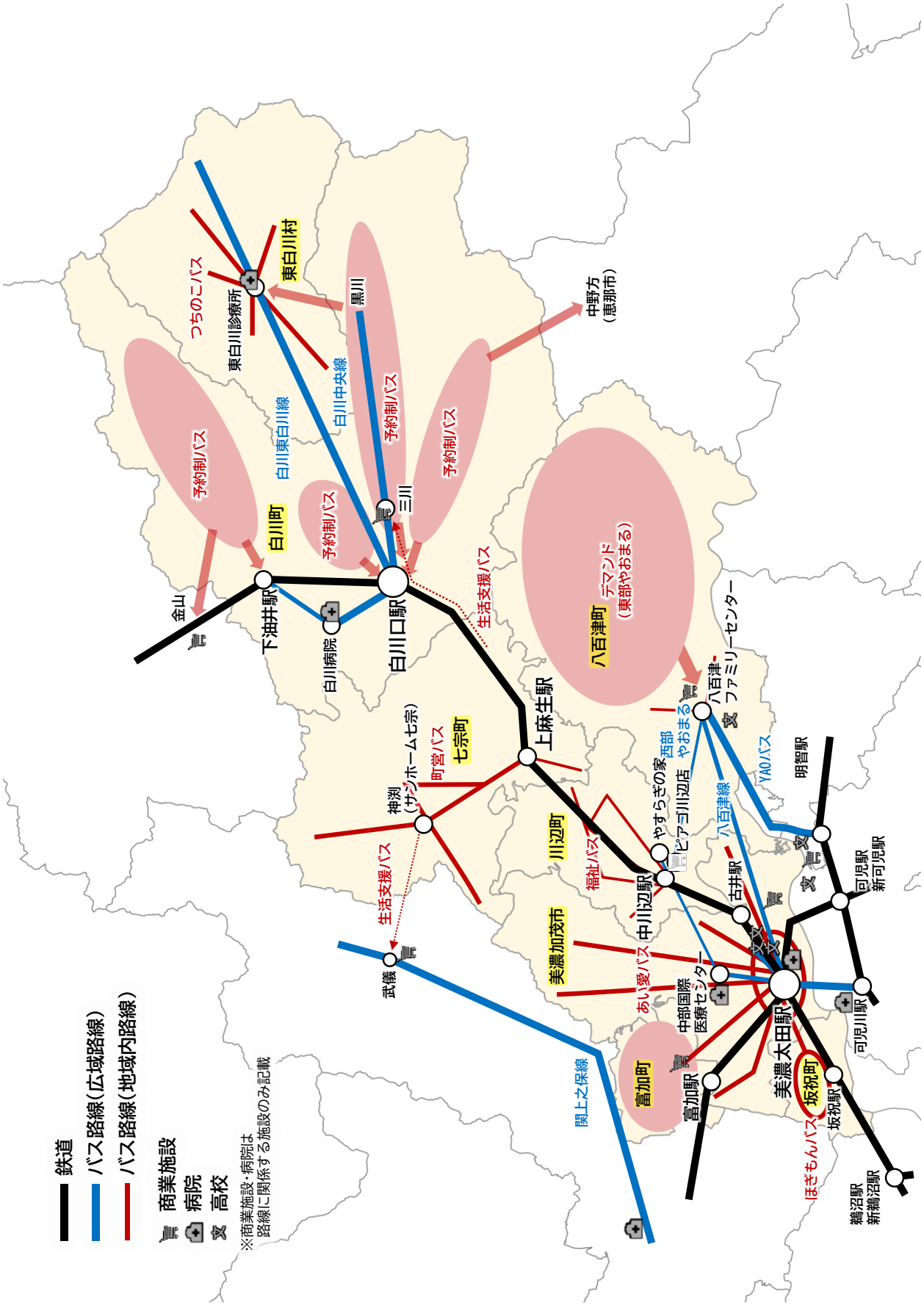
- 観光周遊モデルコースを設定する等、観光客向けの公共交通の情報提供を行い、利用時の利便性向上を図るとともに新規需要の獲得を目指します。

目標４　持続可能な地域公共交通の確保

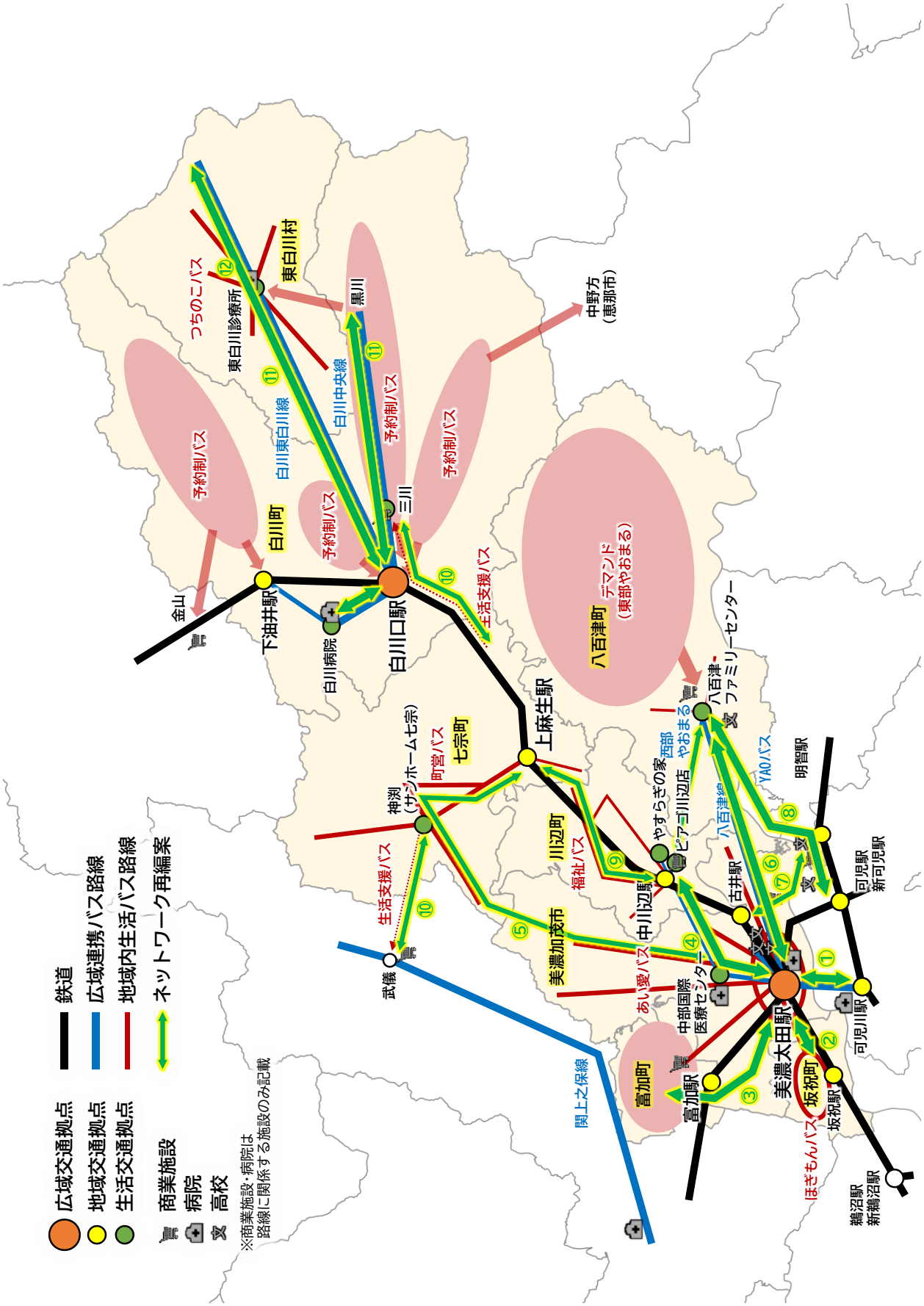
- 複数の市町村が連携した共同運行等により、効率性と利便性を両立させた持続可能な地域公共交通の確保を図ります。
- 地域全体で公共交通の運転手を確保・育成できる体制を整備し、運転手不足の解消を図ります。

２．地域公共交通の将来像

（１）現況の公共交通ネットワーク



（２）目指す地域公共交通の将来像



（３）交通拠点

拠点種別	役割	拠点場所
広域交通拠点	鉄道、広域連携バス路線をはじめ、地域内交通などが結節する拠点	・美濃太田駅（美濃加茂市） ・白川口駅（白川町）
地域交通拠点	鉄道と地域内交通が結節する拠点	・古井駅（美濃加茂市） ・富加駅（富加町） ・中川辺駅（川辺町） ・上麻生駅（七宗町） ・下油井駅（白川町）
生活交通拠点	主要施設（病院、商業施設）があり、日常生活でのアクセスが必要で、他路線との結節する拠点	・中部国際医療センター（美濃加茂市） ・ぎふ清流里山公園（美濃加茂市） ・やすらぎの家（川辺町） ・ピアゴ川辺店（川辺町） ・八百津ファミリーセンター（八百津町） ・三川（マツオカ白川店・ゲンキー加茂白川店）（白川町） ・白川病院（白川町） ・東白川診療所（東白川村）

（４）ネットワーク再編案

①美濃加茂市～可児川駅方面
・美濃加茂市あい愛バスの可児市内乗り入れの継続
②美濃加茂市～坂祝町
・美濃加茂市あい愛バスと坂祝町ほぎもんバスの接続連携
③美濃加茂市～富加町
・美濃加茂市あい愛バスの富加町内乗り入れの継続・拡充
④川辺町福祉バス（美濃加茂コース）
・七宗町・八百津町からの路線との接続・連携の検討
⑤美濃加茂市～七宗町
・美濃加茂市あい愛バスと七宗町町営バスの接続強化
⑥東鉄バス八百津線
・路線維持に向けた美濃加茂市・八百津町が連携した自主運行バス化
⑦高山本線から可児･御嵩方面の通学手段
・古井駅～可児工業高校・東濃実業高校方面へのアクセス手段の検討
⑧八百津町～可児市方面
・YAOバスの利便性向上（運行区間等の見直し）
⑨川辺町～七宗町方面（川辺町福祉バス×七宗町営バス）
・下麻生大牧～大貝戸での接続・連携（共同運行）の検討
⑩七宗町～武儀・白川方面
・町外の商業施設等へのアクセスの確保
⑪白川町・東白川村～美濃加茂市方面
・濃飛バス白川中央線・白川東白川線・予約制バスとJR高山本線との接続の維持
⑫白川町～東白川村
・濃飛バス白川東白川線とつちのこバスの連携

第５章　目標達成のために行う施策

１．事業体系

基本理念と4つの目標、将来の公共交通ネットワークイメージ実現に向け、以下の施策に取り組みます。

目標	実施施策
【目標１】 地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築	1-1　広域連携バス等の維持･整備
	1-2　交通拠点での接続を設定した公共交通網の整備
	1-3　市町村境付近での相互乗り入れ
【目標２】 高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保	2-1　コミュニティバス･デマンド型交通の路線再編
	2-2　定路線バスや福祉輸送の連携
【目標３】 情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進	3-1　公共交通を利用した観光モデルコースの作成
	3-2　GTFSデータを活用した公共交通情報の充実
【目標４】 持続可能な地域公共交通の確保	4-1　共同運行、貨客混載による効率化の検討
	4-2　運転手確保に向けた取り組み

２．施策内容

目標１　地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築

施策1-1　広域連携バス等の維持･整備

【施策概要】

- 都市間や地域間を結ぶ広域移動を担う鉄道や広域連携バス等について、高校生の通学や高齢者の買い物・通院等を中心とした日常生活の足を確保するため、引き続き維持していきます。需要に応じて路線の見直しや新規路線も含めた路線再編の実施も検討し、さらなる利便性向上を図っていきます。

【事業主体】圏域市町村、交通事業者

施策1-2　交通拠点での接続を設定した公共交通網の整備

【施策概要】

- 複数の路線を交通拠点で接続し、スムーズで快適に乗り継ぎができるような公共交通網を整備します。
- 利用状況や需要に応じて、複数の路線が乗り継ぎしやすい接続ダイヤを検討します。
- 交通拠点では、快適な待合環境を整備します。

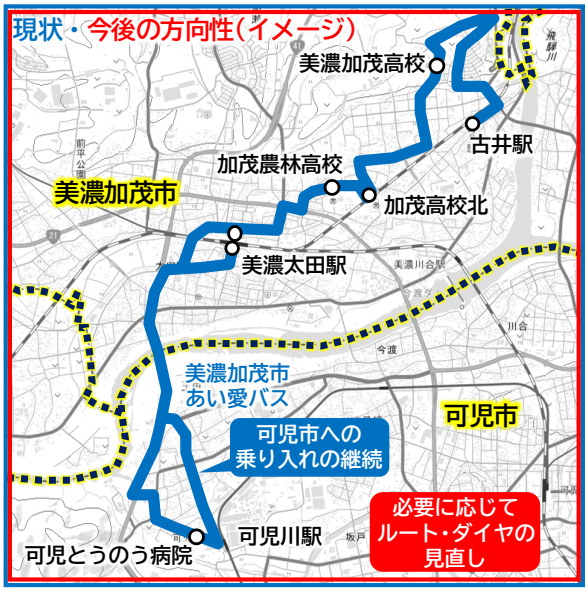
【事業主体】圏域市町村、交通事業者

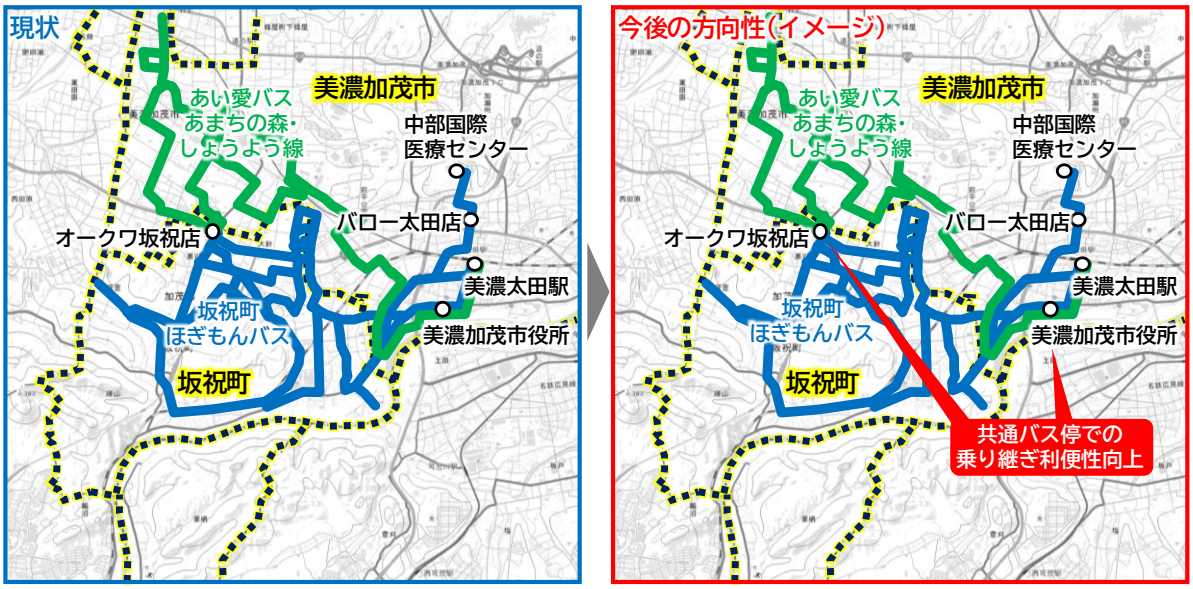
施策1-3　市町村境付近での相互乗り入れ

【施策概要】

- 圏域では行政界を越えた移動需要が多いことから、複数の自治体が連携してバス路線を整備することは、地域住民や来訪者の利便性の向上につながります。市町村境で路線が分断されており、かつ市町村間での移動需要が見込まれる箇所では、他路線への連携の拡大を推進し、相互乗り入れによる運行や共同運行の検討を進めます。

【事業主体】圏域市町村、交通事業者

①美濃加茂市～可児川駅方面	
・美濃加茂市あい愛バスの可児市内乗り入れの継続	
関係自治体	美濃加茂市・可児市
現状	
・美濃加茂市あい愛バスでは、古井駅-可児川駅線が可児市内に乗り入れており、「可児川駅」や「可児とうのう病院」に停留所が設定されています。同路線は、市外から名鉄を利用して加茂高校、加茂農林高校、美濃加茂高校への通学に利用できるように運行されています。 ・同路線は通学利用が非常に多く、特に朝の便は1台では乗り切れず、続行便の運行により対応されています。 ・乗降データによると、あい愛バスの中でも最も利用者の多い路線で、平均9.3便/人の利用があることから、通学需要に対応するため路線を維持する必要性が高くなっています。	
今後の方向性	
・各高校への通学や可児とうのう病院への通院等に利用しやすい路線・ダイヤを引き続き確保し、利用状況や通学・通院実態に注視しながら、ダイヤや車両等の改善を検討します。  	

②美濃加茂市～坂祝町	
・美濃加茂市あい愛バスと坂祝町ほぎもんバスの接続連携	
関係自治体	美濃加茂市・坂祝町
現状	
・美濃加茂市あい愛バスは、坂祝町内にある「オークワ坂祝店」まで乗り入れており、主に太田地区や加茂野地区の方々が買い物のために利用されています。 ・坂祝町コミュニティバスは、美濃加茂市内の「中部国際医療センター」、「美濃太田駅」、「美濃加茂市役所」、「バロー太田店」に停留所を設置しています。 ・坂祝町内には商業施設が少ないため、美濃加茂市方面での通院や買い物を目的とした移動の需要が高く、人流データによると町民による市内への移動も多くみられます。	
今後の方向性	
・美濃加茂市のあい愛バスと坂祝町のほぎもんバスが共通のバス停で乗り継ぎができるよう連携を図り、市民・町民の移動の利便性向上を目指します。  	

③美濃加茂市～富加町

・美濃加茂市あい愛バスの富加町内乗り入れの継続・拡充

関係自治体	美濃加茂市・富加町

現状

・施設利用者ヒアリングによると、バロー富加店は美濃加茂市民の利用も多くなっています。また、人流データによると、富加町内から美濃加茂市内の医療施設・商業施設への移動も多くみられます。

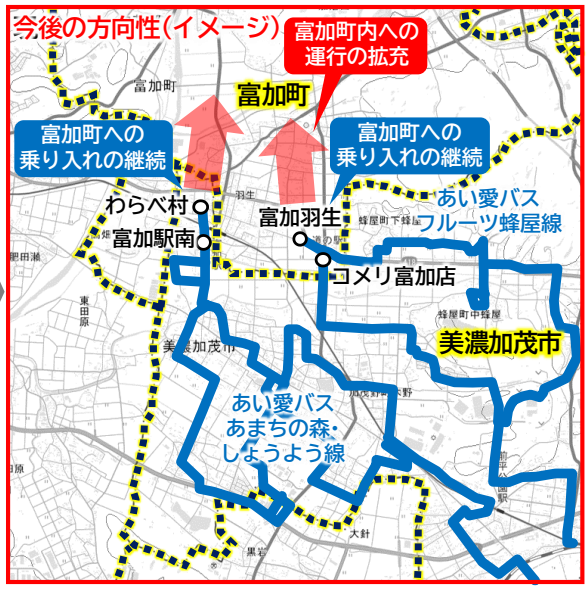
・平成24年5月から平成26年9月まで定住自立圏連携事業として美濃加茂市の「あい愛バス」の町内乗り入れ便を運行しました。ほぼ町内全域をカバーする東西2ルートで高齢者の買い物や通院支援を目的として運行しましたが、各ルート週2日運行1日3便の定時路線でニーズには合わず乗客数が少ないため、平成26年9月末をもって中止となりました。

・富加町では、一般住民が利用できるバス路線はあい愛バス、関シティバスに限られ、町内各地をカバーするコミュニティバス路線は運行されていません。富加町が単独で新たな路線運行を行うには、ハードルが高くなっています。

今後の方向性

・あい愛バスは富加町内のごく一部のみに乗り入れていますが、利用状況や需要に応じて、美濃加茂市及び富加町が共同運行を行い、富加町内の運行を拡充する等、さらなる連携の可能性を検討します。

・町内各所から乗降できるデマンド方式等の効率よい運行で、美濃加茂市（美濃太田駅・中部国際医療センター等）、関市（関中濃厚生病院等）、富加駅・スーパー等へのアクセス構築を検討します。



④川辺町福祉バス（美濃加茂コース）

・七宗町・八百津町からの路線との接続・連携の検討

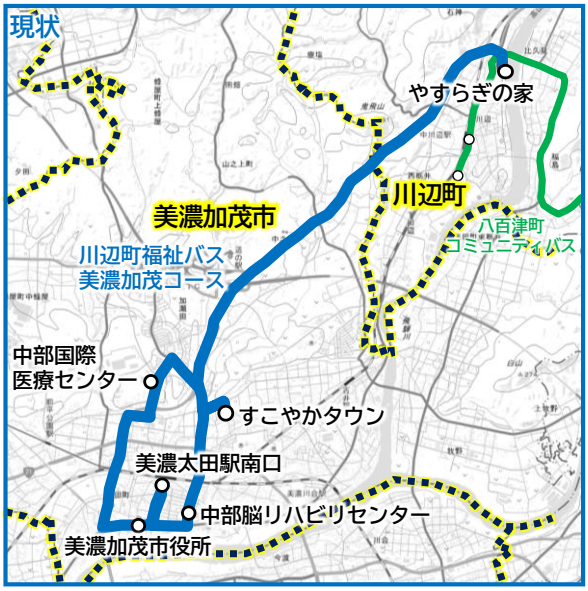
関係自治体	川辺町・七宗町・八百津町（・美濃加茂市）

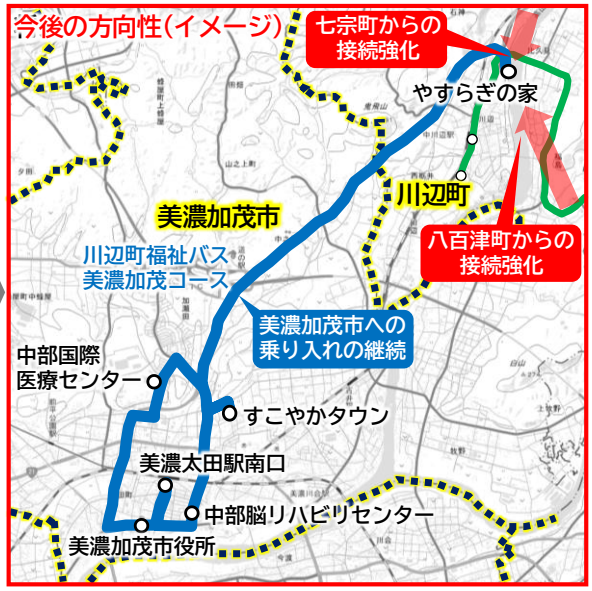
現状

・川辺町福祉バス美濃加茂コースは、川辺町中心部（やすらぎの家）から直接美濃加茂市の美濃太田駅や中部国際医療センター、美濃加茂市総合福祉会館（すこやかタウン）等にアクセスすることができます。
・七宗町では、利用者は限定されますが、生活支援バスが川辺町中心部（ピアゴ川辺店等）に乗り入れています。
・八百津町では、西部コミュニティバス（西部やおまる）が川辺町中心部（ピアゴ川辺店等）に乗り入れています。
・七宗町や八百津町（上飯田地区等）から中部国際医療センターに公共交通や送迎バスで向かう場合、七宗町営バスや八百津町西部コミュニティバス（西部やおまる）で上麻生駅や中川辺駅に向かい、JR高山本線で美濃太田駅を経由して、さらにバス（病院送迎バス、あい愛バス、東鉄バス等）に乗り継ぐ必要があり、何度も乗り換えが生じています。
・人流データによると、七宗町や八百津町から美濃加茂市内の中部国際医療センターや商業施設への移動も多くみられます。

今後の方向性

・七宗町生活支援バス、八百津町西部コミュニティバスと川辺町福祉バスを接続する等、連携を図り、両町から美濃加茂市の中部国際医療センターへのアクセス向上を検討します。
※七宗町や八百津町から川辺町福祉バス美濃加茂コースへの乗り継ぎを前提とする場合、各町の福祉バスの費用負担についても検討する必要があります。





⑤美濃加茂市～七宗町

・美濃加茂市あい愛バスと七宗町町営バスの接続強化

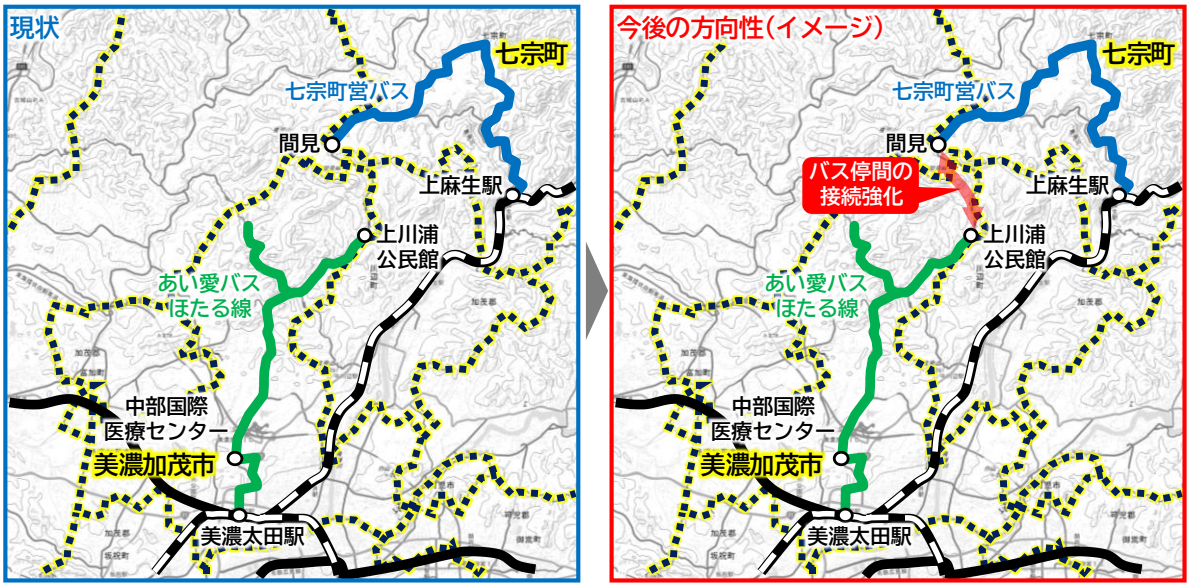
関係自治体	美濃加茂市・七宗町

現状

・美濃加茂市の「あい愛バス」ほたる線は「上川浦公民館」まで運行しており、七宗町の町営バスは「間見」まで運行しています。七宗町からは通院や買い物のため、美濃加茂市への移動ニーズがあるものの、ＪＲ高山本線や複数のバスを乗り継がなければならず、移動が不便な状況です。
・住民アンケートでも、日常生活で七宗町内から美濃加茂市内の商業施設や医療施設への買い物や通院が多くみられます。

今後の方向性

・美濃加茂市と七宗町が連携し、「あい愛バス」と七宗町町営バスのバス停間での接続強化を図ります。また、利用者が乗り継ぎやすいダイヤを設定することで、移動の利便性を向上させ、地域住民のお出かけを促進します。



⑥東鉄バス八百津線

・路線維持に向けた美濃加茂市・八百津町が連携した自主運行バス化

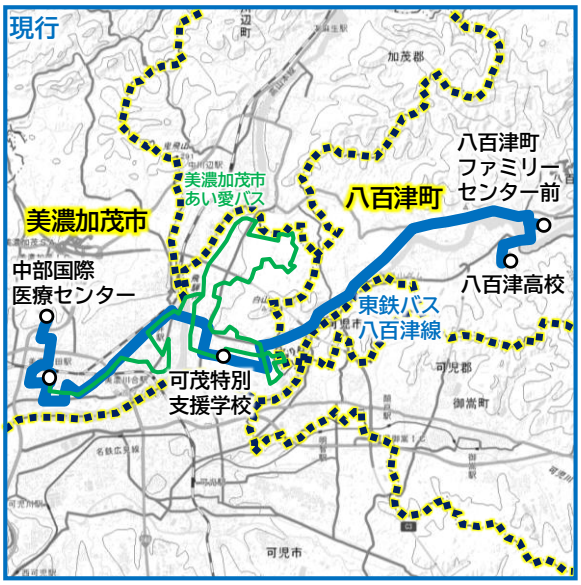
関係自治体	美濃加茂市・八百津町

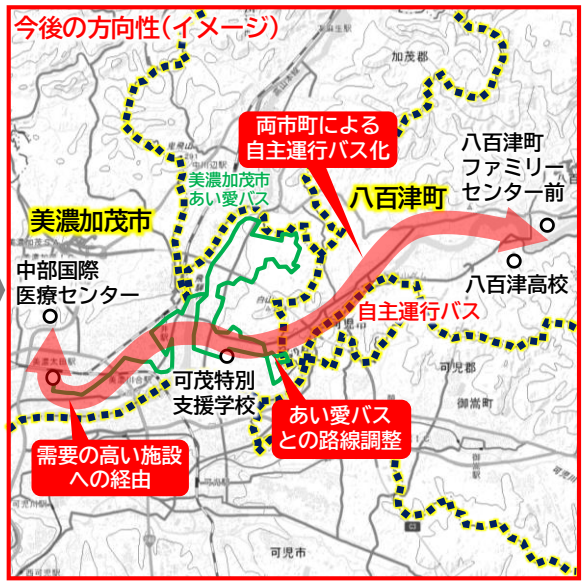
現状

・東鉄バス八百津線は、美濃加茂市から八百津高校への通学、八百津町から加茂高校や可茂特別支援学校等への通学、中部国際医療センターへの通院に利用される生活に必要な路線ですが、利用者数の減少が続いており、事業者単独での運行が困難になっています。
・現在は、美濃加茂市及び八百津町からの補助により運行を維持していますが、厳しい状況は続いており、運行方法の見直しを含め検討する必要があります。
・高校生アンケートや事業者ヒアリングによると、東鉄バス八百津線は事業者路線のため通学定期券の価格が鉄道路線や自主運行バスよりも割高となり、定期券価格の安いJR太多線・名鉄広見線・YAOバスを経由した遠回りのルートで美濃太田～八百津間で通学する生徒もみられます。

今後の方向性

・美濃加茂市と八百津町が連携し、両市町が連携した共同運行の自主運行バスに転換する等、路線の維持に向けた取り組みを行います。
・需要の高い施設への経由地の追加やあい愛バスむくの木・そうきち線と路線が重複する区間での路線見直しを検討し、利便性向上や効率性の向上を図ります。
・自主運行バスとすることで、並行するJR太多線・名鉄広見線・YAOバスの定期券価格も考慮した上で、定期券の金額設定を見直し、遠回りをしなくても通学しやすくなるようにします。





⑦高山本線から可児･御嵩方面の通学手段

・古井駅～可児工業高校・東濃実業高校方面へのアクセス手段の検討

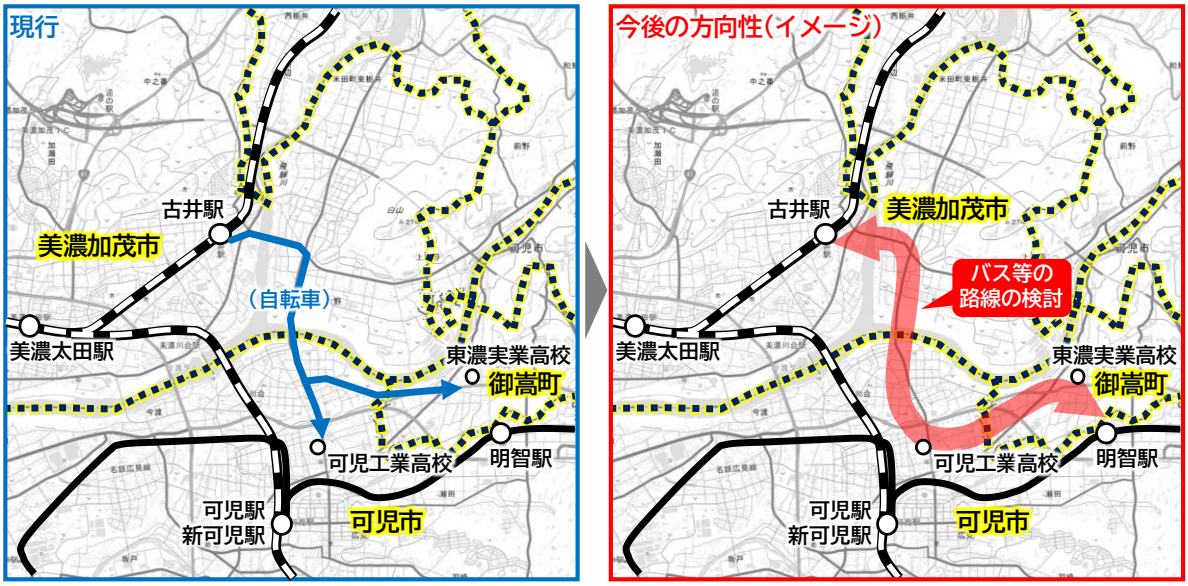
関係自治体	美濃加茂市・可児市・御嵩町

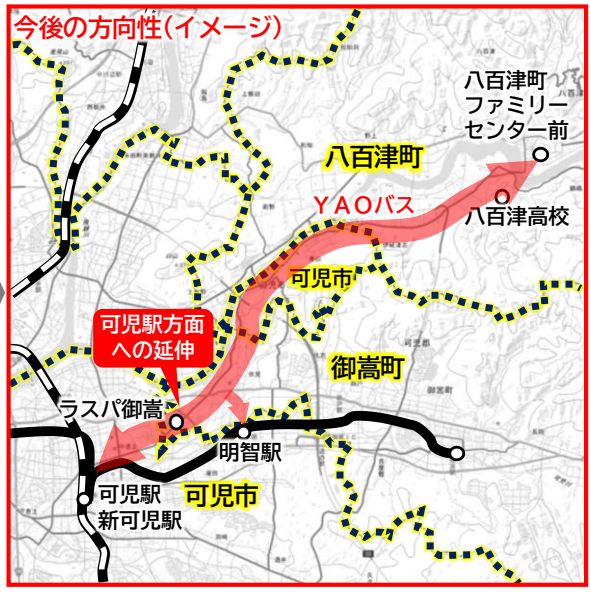
現状

・古井駅での利用者ヒアリングによると、川辺町・七宗町・白川町方面から可児工業高校・東濃実業高校に通学する際、JR高山本線を利用して古井駅で下車し、両校まで約4～5km自転車を利用して通学する生徒が一定数みられました。
・自転車を利用せず、最寄り駅である可児駅や明智駅まで利用するには、美濃太田駅や可児駅で乗り換える必要があり、公共交通だけで通学する場合、不便な状況となっています。

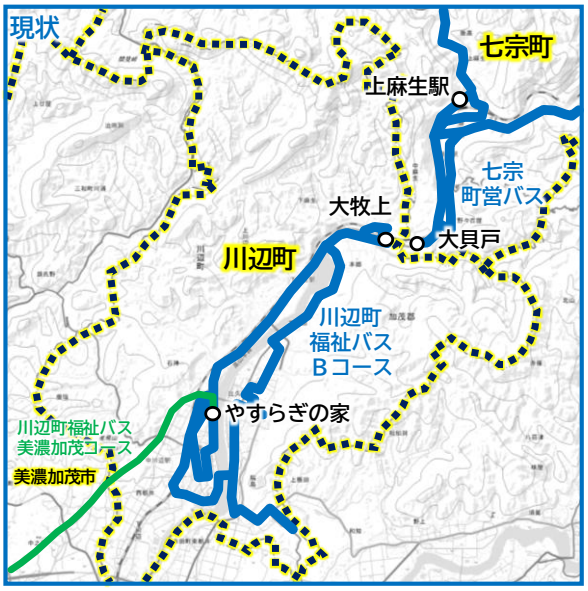
今後の方向性

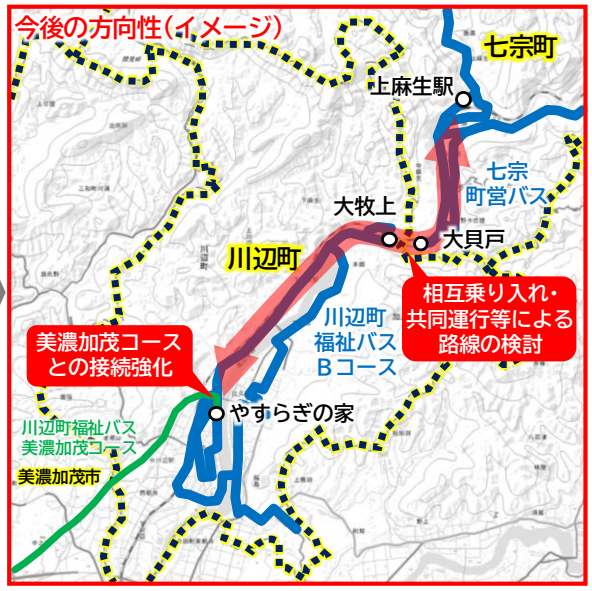
・各校の生徒の居住地や需要の規模等を検証し、必要に応じて古井駅と両高校方面を結ぶ公共交通手段の導入を検討します。



⑧八百津町～可児市方面	
・YAOバスの利便性向上（運行区間等の見直し）	
関係自治体	八百津町・可児市・御嵩町
現状	
・YAOバスは、明智駅で可児方面の名鉄広見線に接続しており、可児方面と八百津町方面間の移動での利用が多くなっていますが、明智駅に乗り入れるために明智橋まで東側に迂回するルートで運行されており、やや遠回りとなっています。 ・名鉄広見線を経由して名古屋方面に向かう場合、明智駅と新可児駅の2駅で連続して乗り換える必要があります。 ・旧名鉄八百津線の沿線を結んでいますが、住民アンケートや利用者アンケートでは、御嵩町の商業施設や可児方面に行きたいという要望も多くみられます。	
今後の方向性	
・バスの特長を活かし、旧名鉄八百津線のルートにこだわらず、時間帯ごとの需要に応じ、日常生活の利便性の商業施設等を経由するルートの設定を検討します。 ・御嵩町の商業施設や可児市中心部の施設等にも利用しやすいようルートを延長し、可児駅等まで運行することも検討します。  	

⑨川辺町～七宗町方面（川辺町福祉バス×七宗町営バス）	
・下麻生大牧～大貝戸での接続・連携（共同運行）の検討	
関係自治体	川辺町・七宗町
現状	
・住民アンケートによると、七宗町内には商業施設が少なく、川辺町方面で買い物をする町民も多く、川辺町方面への移動の需要があります。 ・国道41号沿いの川辺町・七宗町境付近は、集落が連続しているものの、川辺町福祉バスは川辺町大貝戸で、七宗町営バスは下麻生大牧で折り返すため、両町間を行き来することができないため、七宗町内から川辺町方面へ行く場合、JRに乗り継ぐ必要があり、不便な状況となっています。	
今後の方向性	
・川辺町福祉バスが上麻生方面に、七宗町営バスが川辺町方面に相互に乗り入れる等、両町の連携により、利便性向上が図れないか検討します。 ・川辺町福祉バスは道路運送法によらない無償運行、七宗町営バスは自家用有償運送（交通空白）による有償運行と運行形態が異なるため、適切な運行形態も含め検討します。	





⑩七宗町～武儀・白川方面

・町外の商業施設等へのアクセスの確保

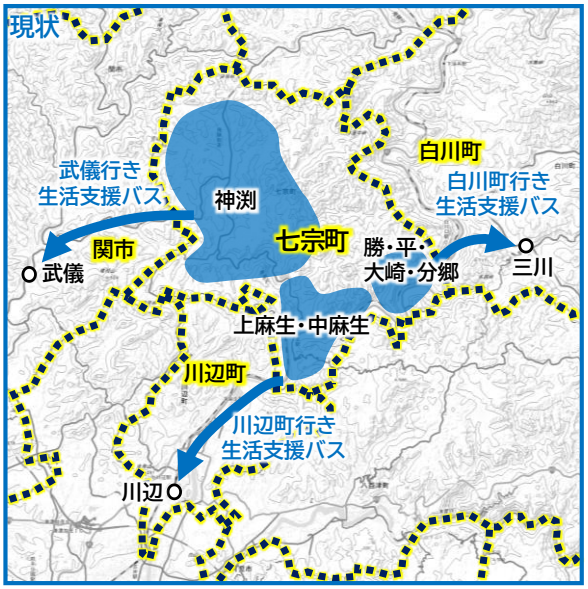
関係自治体	七宗町・川辺町・白川町・関市

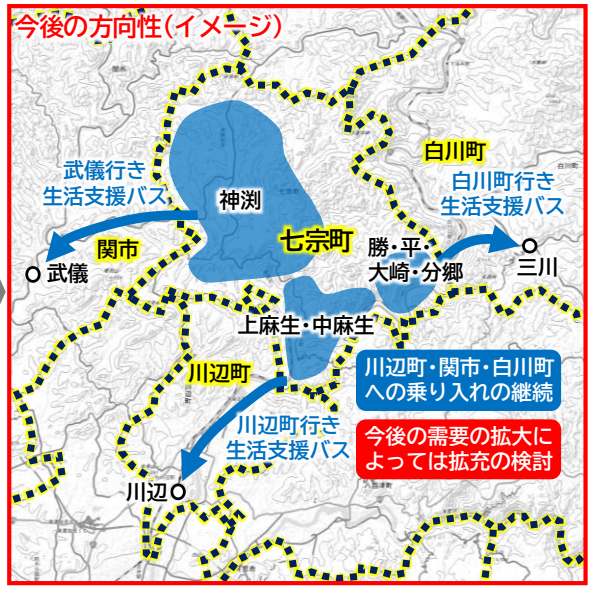
現状

・七宗町内には大きな商業施設がないため、町外への買い物需要が高くなっています。
・生活支援バスが各地区から川辺町、白川町、関市武儀方面に運行されており、高齢者等を中心に利用されています。
・運行事業者ヒアリングによると、現状の利用者にとっては町外の買い物施設や医療施設に移動するための唯一の交通手段であり、引き続き確保していく必要があります。

今後の方向性

・引き続き、生活支援バス事業を継続して行い、町外への買い物や通院のアクセスを確保します。
・今後の需要の拡大によっては拡充も検討します。





⑪白川町・東白川村～美濃加茂市方面

・濃飛バス白川中央線・白川東白川線・予約制バスとJR高山本線との接続の維持

関係自治体	白川町・東白川村

現状

・白川町内を運行する予約制バスや白川中央線、白川町～東白川村間を運行する白川東白川線を利用して、白川町・東白川村内から高校への通学や白川病院等への通院に利用できるように公共交通が整備されています。
・運行事業者ヒアリングによると、白川中央線・白川東白川線や通学や通院に必要な路線であり、定期的にダイヤ等を見直しながら路線を確保していく必要があります。

今後の方向性

・今後もJR高山本線のダイヤ改正や高校の始業終業時刻等に合わせ、定期的に見直しを行い、通学や通院に利用できる交通手段を確保します。

⑫白川町～東白川村

・濃飛バス白川東白川線とつちのこバスの連携

関係自治体	東白川村

現状

・令和6年から東白川村つちのこバスの運行が開始され、村内各地から診療所等へのアクセスが整備されました。
・運行事業者ヒアリングによると、つちのこバスと白川東白川線と路線が重複する区間では、従来の白川東白川線の利用者がつちのこバスに転換しているケースもみられ、白川東白川線の利用者の減少にもつながっています。

今後の方向性

・利用状況を注視しながら、つちのこバスから白川東白川線に乗り継ぐことで、村内各地区から白川町市街地・白川口・白川病院方面への利便性が向上できるよう、引き続き白川東白川線とつちのこバスが連携した運行のさらなる改善を検討します。

目標２　高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保

施策2-1　コミュニティバス･デマンド型交通の路線再編

【施策概要】

- 高校生の通学や、高齢者等の通院・買い物等に利用しやすい公共交通手段を確保します。
- 地域内の各エリアから目的地へ行くことができるようにするため、地域内を運行するコミュニティバスやデマンド型交通、福祉バス等の地域内交通の充実を図り、これらの路線を結節点で鉄道や広域路線バスに結節させることで、目的施設や周辺市町へ気軽におでかけができるように路線再編を行います。

【事業主体】圏域市町村、交通事業者

施策2-2　定時定路線バスや福祉輸送の連携

【施策概要】

- 現状では、「公共交通」としての路線バスやデマンド型交通、「福祉施策」としての福祉バスや福祉有償運送等が、同じ地域で運行されているケースがみられます。今後の需要に応じて、福祉有償運送の一般路線化等も検討し、限られたリソースの中で持続可能な公共交通を維持できるように定時定路線バスや福祉輸送の連携を検討します。

【事業主体】圏域市町村、交通事業者

目標３　情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進

施策3-1　公共交通を利用した観光モデルコースの作成

【施策概要】

- 公共交通を利用して圏域内を周遊できる観光モデルコースを作成し、WEBサイト等で情報提供を行うことで、圏域の観光周遊の促進を図ります。

【事業主体】圏域市町村、観光協会

施策3-2　GTFSデータを活用した公共交通情報の充実

【施策概要】

- 圏域内を運行するバスのGTFS整備を進め、検索サービス事業者に提供することで、利用者がバスの情報を調べやすい環境を整備します。
- 令和11年の本構想評価時にはすべてのバスのオープンデータ化を目指します。

GTFSデータ整備状況（定時定路線）

路線名等	GTFSデータ作成	オープンデータ化	関係市町村
美濃加茂市あい愛バス	○	○	美濃加茂市
坂祝町ほぎもんバス	×	×	坂祝町
川辺町福祉バス	×	×	川辺町
七宗町営バス	○	○	七宗町
東鉄バス八百津線	×	×	八百津町
YAOバス	○	○	八百津町・可児市・御嵩町
八百津町西部やおまる	○	○	八百津町
八百津町無料観光シャトルタクシー	○	○	八百津町
濃飛バス白川中央線	○	○	白川町
濃飛バス白川東白川線	○	○	白川町・東白川村
東白川村つちのこバス	×	×	東白川村

（令和7年12月末時点）

【事業主体】圏域市町村、検索サービス事業者

目標４　持続可能な地域公共交通の確保

施策4-1　共同運行・貨客混載による効率化の検討

【施策概要】

- 圏域内の一部（YAOバス、白川東白川線等）では、複数市町村による共同運行や複数市町村が連携した運行が行われ、効率的な運行や市町村境をまたいだ利便性の高いサービスが提供されています。
- その他市町村境をまたぐ需要が高いエリア等においても、複数市町村による共同運行や複数市町村が連携した運行の検討を行い、効率化や利便性向上を図ります。
- 白川町・東白川村では、貨客混載について検討が進められています。圏域内の他地域でも、路線バスでの荷物の輸送の需要が考えられる貨客混載の導入可能性を検討します。

【事業主体】圏域市町村、交通事業者

施策4-2　運転手確保に向けた取り組み（事業者・社協等）

【施策概要】

- 運転手不足が深刻化する中で地域公共交通を安定して維持するため、地域全体で担い手を確保・育成する体制を整備します。
- 交通事業者や社会福祉協議会等と連携し、働きやすい環境づくりや多様な人材の参入促進、地域内での担い手育成等の将来的にも持続可能な体制を整備します

具体的な取り組み例

・運転体験会や会社説明会の開催（共催を含む）
・求人情報をバス車内に貼りだすなど広報活動の実施

【事業主体】圏域市町村、交通事業者、社会福祉協議会

バス運転手合同説明会チラシ（東濃地区）

〔岐阜県バス協会〕

第６章　構想の評価指標

１．評価指標の設定

施策の実施による効果を計測するため、下記の評価指標を設定します。

評価指標		現況値（令和7年度）	目標値（令和12年度）
目標１	地域連携・乗り継ぎによる利便性の高い広域公共交通網の構築		
指標１	連携市町村年間バス利用者数	(R6)307,458人	320,000人以上
指標２	複数市町村が連携した路線･ダイヤ見直しの実施件数	－	1件以上/年
目標２	高校生や高齢者等の日常生活の移動に利用しやすい生活交通の確保		
指標３	行ける行けない表（高校･病院等）での「○」の増加数	－	5箇所以上/5年
目標３	情報提供の連携・強化による利便性向上・観光周遊の促進		
指標４	観光モデルコースの作成数	0コース	10コース以上/5年
目標４	持続可能な地域公共交通の確保		
指標５	共同運行・貨客混載・運転手募集に係る説明会等の実施件数	0件	1件/年以上

２．評価の方法

本構想の進捗状況を確認し、施策の実施状況を毎年確認するとともに、各指標の達成状況を毎年年度末に確認します。

施策の実施状況やモニタリング評価の結果をもとに、施策の実施による効果の検証、路線ごとの課題や改善策の検討を行い、次年度以降の事業の実施方針の検討につなげます。